

RC213V-S

OWNER'S MANUAL



OWNER'S MANUAL



© 50.2015.12.G
PRINTED IN JAPAN

30MJT601
00X30-MJT-6010

Honda 車をお買いあげいただきありがとうございます。
安全で快適なバイクライフをお楽しみください。

この取扱説明書と共に「メンテナンスノート」を受取り、下記を確認してください。

- お車の正しい取り扱い方
- 保証内容と保証期間
- 点検・整備について
- 車両受領書・保証書受領書の記入・捺印

安全運転の基本として以下は重要です、お守りください。

- この取扱説明書を、よくお読みください
- 取扱説明書の推奨手順に従ってください
- 安全に関する表示を理解し、守ってください

安全に関する表示

「運転者や他の方が傷害を受ける可能性のあること」を回避方法と共に、右記の表示で記載しています。これらは重要です、しっかりお読みください。

危険

指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの

警告

指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの

注意

指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

アドバイス

お車のために守っていただきたいこと

車の仕様、その他の変更により、この本の表紙や内容と実車が一致しない場合があります。
車を譲られる場合、次の方にこの取扱説明書およびメンテナンスノートをお渡しください。

安全なライディング	P. 2
-----------	------

操作ガイド	P. 8
-------	------

メンテナンス	P. 48
--------	-------

こんなときは	P. 72
--------	-------

インフォメーション	P. 80
-----------	-------

スペック	P. 91
------	-------

索引	P. 92
----	-------

安全なライディング

この章では安全な運転のために必要な情報を記載しています。
安全のためによくお読みください。

安全上守っていただきたいこと	P. 3
安全運転のために	P. 3
運転するときの注意	P. 4
アクセサリーと改造について	P. 7
積載について	P. 7

安全上守っていただきたいこと

安全のため、日常的に次の内容をお守りください。

- 道路運送車両法で定められた日常点検・定期点検を行ってください
- ガソリンの補給は、必ずエンジンを止め、火気厳禁で行ってください
- 排気ガスには一酸化炭素(CO)などの有害な成分が含まれているため、エンジンは、風通しの良い場所でかけてください

取扱説明書

運転するときは、常に取扱説明書とメンテナンスノートを携帯してください。

安全運転のために

- 走行中、運転者は両手でハンドルを握り、両足をステップに置いてください
- 急激なハンドル操作や片手運転などはさけ、安全な運転を心がけてください
- 他の車両、歩行者などに対する配慮を欠かさないでください

乗車時の服装

運転者は必ずヘルメットを着用し、天候や走行状況に応じ、安全性が高く運転操作のしやすい、被視認性の高い二輪車用の服装を着用してください。

■ ヘルメット

安全基準を満たし、頭のサイズにあった視認性の高いもの

- 二輪車でPSC、SGマークかJISマークのあるものを推奨します
- 正しくかぶり、あごひもを確実に締めてください

- 視界を妨げないフェイスシールドまたはゴーグルなどを使用し、眼を保護してください

警告

ヘルメットを正しく着用していないと、万一の事故の際、死亡または重大な傷害に至る可能性が高くなります。

運転者は乗車時、必ずヘルメット、保護具および保護性の高い服を着用してください。

■ グローブ

摩擦に強い皮製のもの

■ ブーツ

滑りにくく、くるぶしまで覆われたもの

■ ジャケット・パンツ

皮製のレーシングスーツを着用してください

- この車は、運転者への耐熱保護は最小限しか装備されていません
従って、フレームやシートカウルの熱から体を保護するため、皮製のレーシングスーツが必要です

運転するときの注意

慣らし運転

適切な慣らし運転を行うと、お車の性能をより良い状態に保つことができます。

■ 慣らしのポイント(走行距離 500 km まで)

- 急発進、急加速をさける
- 急ブレーキ、急なシフトダウンをさける
- 控えめな運転をする

段差について

この車は、最低地上高が低くなっています。段差がある場所では慎重に走行してください。

ブレーキ

次の項目に注意してください。

- 制動力を効果的に得るために前輪ブレーキと後輪ブレーキを同時に使う
- 不必要な急ブレーキ、急なシフトダウンをしない
 - ▶ タイヤをロックさせるなど、車体の安定性を損なうおそれがあります。
 - ▶ コーナリングの際は、コーナーの手前で減速してください。
- 雨天走行など滑りやすい路面に注意する
 - ▶ タイヤがロックしやすく、制動距離が長くなります。
- 連続したブレーキ操作をしない
 - ▶ 長い坂や急な坂で繰り返しブレーキをかけると、ブレーキの温度が上昇して効きが悪くなるおそれがあります。エンジンブレーキと断続的なブレーキ操作を併用してください。

■ エンジンブレーキ

スロットルを戻すと、エンジンブレーキが効きます。さらにエンジンブレーキを必要とするときは 5 速、4 速・・・とシフトダウンを行ってください。急激なシフトダウンは、尻振りなどの原因や、エンジンやトランスミッションに悪影響を与えます。また、長い下り坂や急な下り坂などでは、ブレーキ操作とエンジンブレーキを併用してください。エンジンブレーキの強さはライディングモードで変更できます。▶ P. 42

■ 雨天または水たまりを走行したとき

路面が滑りやすくなったり、ブレーキの効き具合が変化します。慎重なブレーキ操作を心がけてください。ブレーキの効きが悪いときは、ブレーキを軽く作動させながらしばらく低速で走行して、ブレーキを乾かしてください。

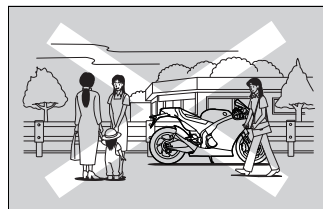
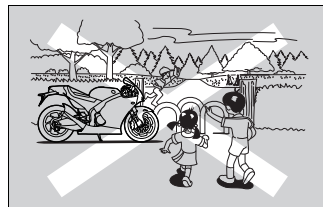
駐車するとき

- 交通の邪魔にならない平坦で足場のしっかりした安全な場所に駐車する
- やむをえず傾斜地や足場の悪い場所に駐車するときは、車の転倒や動き出しがないよう安全処置に十分注意する
- 盗難防止のため、車から離れるときは必ずハンドルロックをかけ、キーを抜く

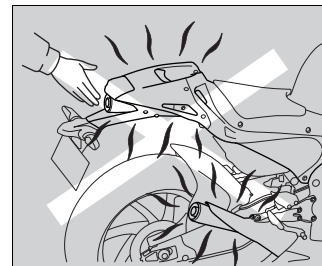
Ⅰ サイドスタンドでの駐車

1. 電装システムを OFF にする。
2. サイドスタンドを下げ、車の重量がサイドスタンドにかかるまで、車をゆっくり左に傾ける。
▶ ハンドルを右にきった状態での駐車は、車が不安定になり、転倒するおそれがあります。
3. ハンドルバーを左いっぱいにする。
4. ハンドルロックをかけ、キーを抜く。■ P. 35

- マフラーなどが熱くなっているので、他の方が触れることのない場所に駐車する



- エンジン回転中および停止後しばらくの間はマフラー、エンジンなどに触れない



▲ 注意

マフラー、エンジン、ブレーキなどは、エンジン回転中および停止後しばらくの間は熱くなっています。触れるとヤケドを負う可能性があります。

- ・ マフラー、エンジン、ブレーキなど高温になる部分は冷えるまで触れないこと
- ・ 高温になる部分に可燃物が接触せず、他の方が触れることのないよう配慮すること

燃料補給およびガソリンの取り扱い

エンジンや触媒装置の損傷を防ぐため、下記に注意してください。

- 無鉛プレミアムガソリンを使用する
- 高濃度アルコール含有燃料を補給しない
- 軽油や粗悪ガソリン(長期間保管したガソリン)、または不適切な燃料添加剤を使わない
- 燃料タンクの中に、泥、ほこり、水などを入れない

警告

ガソリンは燃えやすくヤケドを負ったり爆発して重大な傷害に至る可能性があります。また身体に帯電した静電気の火花により引火する可能性があります。

ガソリンを取り扱うときは以下のことを守ってください。

- ・ エンジンを止め、火元を遠ざける
- ・ 給油は必ず屋外で行う
- ・ こぼれたガソリンは、すぐに拭き取る
- ・ 給油作業前に車体や給油機などの金属部分に触れて静電気を除去する

Honda セレクタブル トルク コントロール(トルクコントロール)

このシステムは、アクセルオンの状態で後輪の空転を検知した際に、選択したトルクコントロールレベルに応じて後輪への駆動力を制限します。

くわえて、加速時の急激なウイリーをトルクコントロールレベルに応じて緩和します。

- トルクコントロールレベルを低く設定した場合、アクセルオンの状態で後輪が空転する場合があります
 - ▶ 運転技術、運転状況に応じてトルクコントロールレベルを選んでください。
 - ▶ P. 42
- トルクコントロールは減速時には作動せず、エンジンブレーキによる後輪のロックは防止しない
 - ▶ スロットルを急に閉じる操作はさけてください。特に、滑りやすい路面ではさけてください。
- トルクコントロールは、急なスロットル操作や誤ったスロットル操作、道路状態などを補完するものではない
 - ▶ 天候や路面状況に対して常に十分な注意をしてください。

トルクコントロールを正常に機能させるため、タイヤは必ず前後輪とも指定タイヤをお使いください。

アクセサリーと改造について

アクセサリーを装着する際は、安全面から Honda 純正アクセサリーを推奨します。RC213V-S テクニカルショップにご相談ください。

RC213V-S テクニカルショップで取り付けられた Honda アクセサリーなどの取り扱いについては、その商品に付属の説明書をお読みください。

車の構造や機能に関係する改造は、操縦性を悪化させたり、排気音を大きくしたり、ひいては車の寿命を縮めることがあります。不正改造は法律に触れることはもちろん、他の迷惑行為となります。

車の改造は保証の適用を除外されます。

警告

不適切なアクセサリーや改造は、万一の事故の際、死亡または重大な傷害に至る可能性が高くなります。

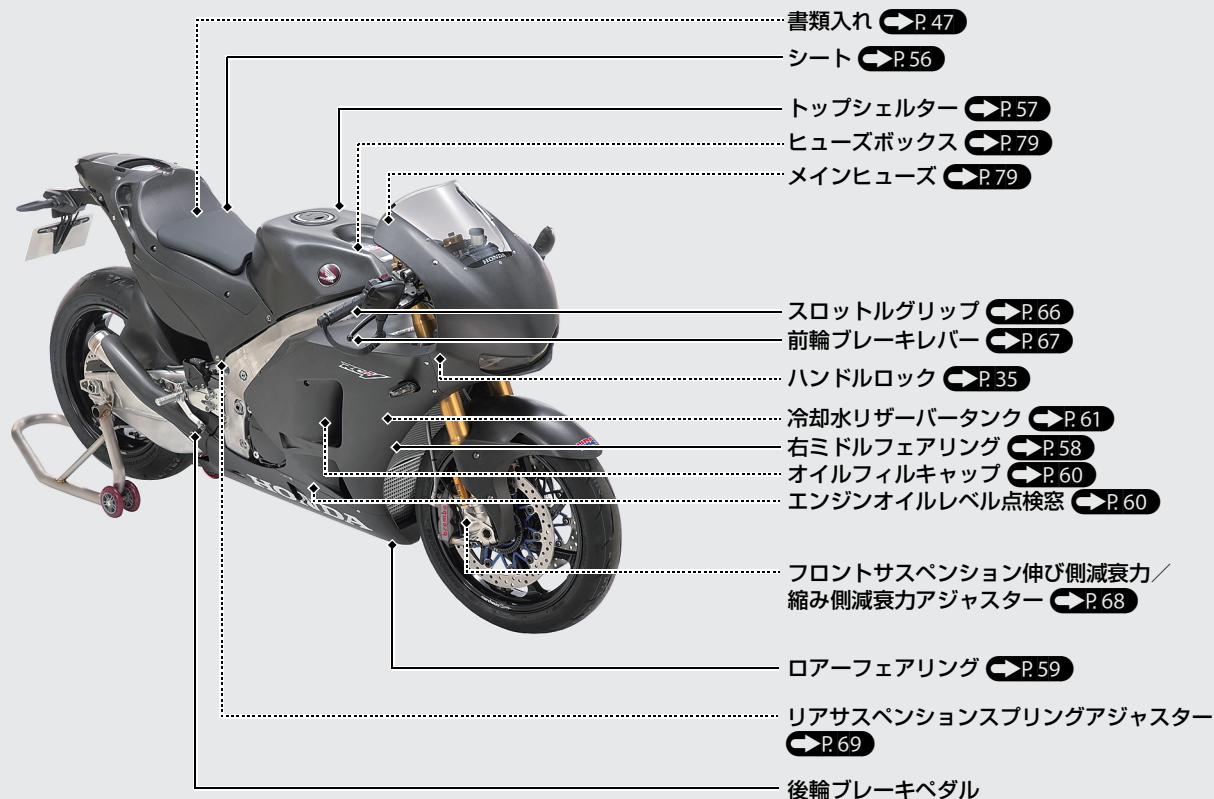
アクセサリーを装着する際は、RC213V-S テクニカルショップにご相談のうえ、取扱説明書に従ってください。

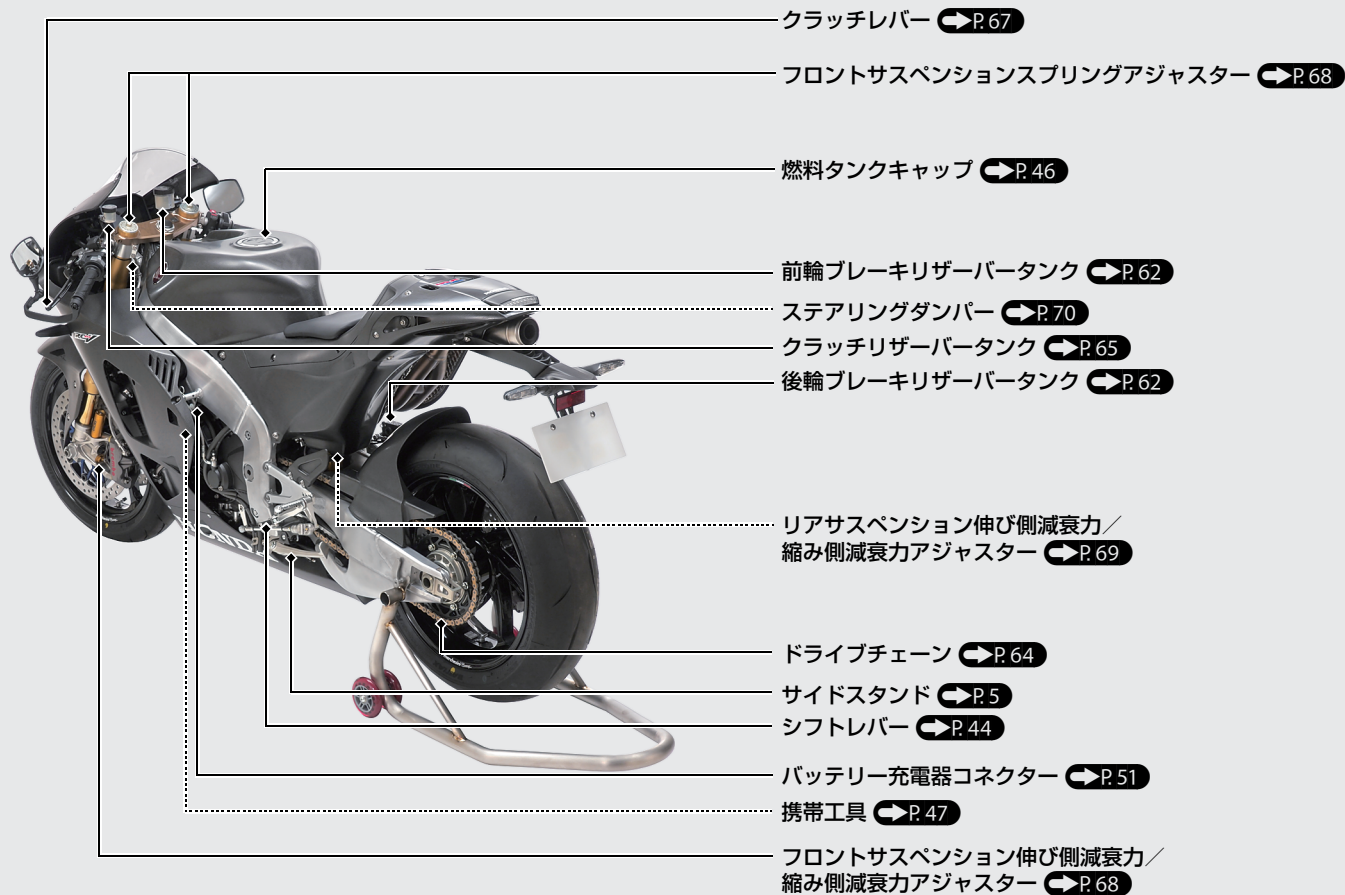
RC213V-S は 1 人乗りです。車体の構造上、2 人乗りはできません。同乗者が乗車可能となる改造はしないでください。

積載について

- 車体には荷物を積まないでください
この車は、車体の構造上、荷物の積載ができません
▶ 荷物は運転者が携帯してください。
- 携帯している荷物に応じて、安全な速度で走行してください
- ハンドル操作が出来なくなる場合があるので、ハンドル付近に物を置かないでください
- ヘッドライト、ウィンカー、テールランプ、シートカウル、マフラー周辺へ物を置かないでください
▶ 過熱により荷物が損傷する場合があります。

各部の名称





メーター

ストリートモード

アンバーゾーン
(暖機モード時のエンジン限界回転域)

■ 暖機モードについて ➡ P.31

タコメーター (エンジン回転計)

アドバイス

エンジン回転数がレッドゾーンに入らないように運転してください。エンジン寿命に悪影響を与えます。

時計 (12 時間表示)

■ 時計の設定 ➡ P.16 ➡ P.21

スピードメーター (速度計)

水温計 (水温)

表示範囲 (35 ~ 132 °C)

- 34 °C 以下: “--” 表示

- 122 ~ 131 °C:

- 水温警告灯が点灯

- 水温表示が点滅

- 132 °C 以上:

- 水温警告灯が点灯

- 水温表示が 132 °C で点滅

▶ 水温が低い場合でも、エンジン回転数が上がると冷却ファンが回る場合がありますが、異常ではありません。

ディスプレイの初期表示

電装システムを起動すると、ディスプレイにオープニング表示があらわれます。表示されない場合は、RC213V-S テクニカルショップで点検を受けてください。

レッドゾーン
(エンジン限界回転域)

ギアポジション表示

ギアポジションを表示

▶ トランスミッションが適切なシフトになっていない場合 “-” が表示されます。

ライディングモード

➡ P.40

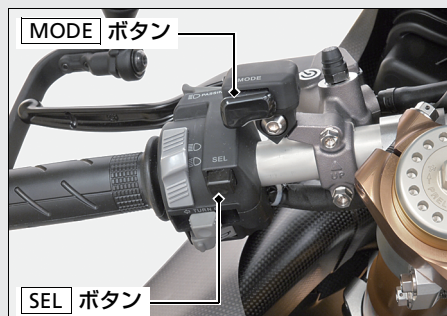
ディスプレイの切り換えかた

- ① **[SEL]** ボタンを押し、表示範囲を選択する。
- ② **[MODE]** ボタンを押し、表示を選択する。
- ③ **[SEL]** ボタンを押し、設定を決定する。決定と同時に次の表示範囲に移動する。または設定を終了する。

約 10 秒間ボタン操作が無いときは、通常表示に戻ります。

➡ **[SEL]** ボタンを押し

➡ **[MODE]** ボタンを押し



50℃
 TOTAL 500 km

LO
 RANGE 27 km

ポップアップ情報表示

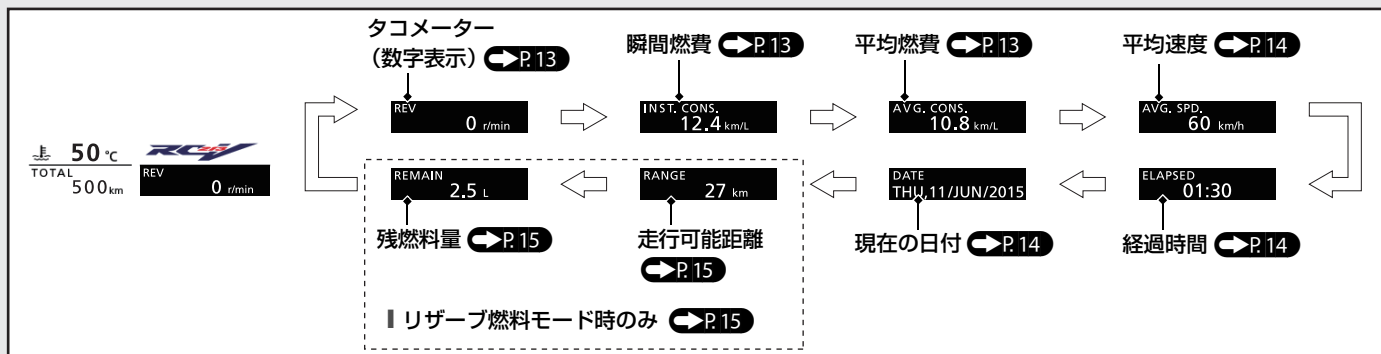
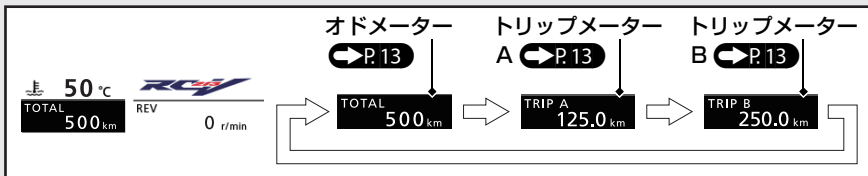
以下の場合、RCV ロゴ、または RCV ロゴと水温計がポップアップ情報表示に変化する。

- 車両の点検時期が近づいた場合
- 運転者へ役立つメッセージがある場合
- 車両に何らかの異常がある場合

！ポップアップ情報表示について ➡ P.28

ENGINE SENSOR
 TOTAL 500 km REV 0 r/min

50℃
 TOTAL 500 km REV 0 r/min



サーキットモード

レッドゾーン
(エンジン限界回転域)

タコメーター (エンジン回転計)

アドバイス

エンジン回転数がレッドゾーンに入らないように運転してください。エンジン寿命に悪影響を与えます。

時計 (12 時間表示)

Ⅰ 時計の設定 ➡ P.16 ➡ P.21

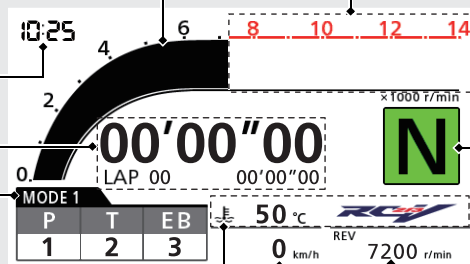
ラップタイマー ➡ P.26

ライディングモード ➡ P.40

ギアポジション表示

ギアポジションを表示

▶ トランスミッションが適切なシフトになっていない場合 “-” が表示されます。



ポップアップ情報表示 ➡ P.28

タコメーター (数字表示) ➡ P.13

スピードメーター (速度計)

水温計 (水温) ➡ P.10

Ⅰ サーキットモードへの切り換えかた ➡ P.16 ➡ P.19

ディスプレイの初期表示

電装システムを起動すると、ディスプレイにオープニング表示があらわれます。表示されない場合は、RC213V-S テクニカルショップで点検を受けてください。

オドメーター[TOTAL]

総走行距離を表示

TOTAL
500 km

表示が“-----”になったときは、RC213V-S テクニカルショップで点検を受けてください。

トリップメーターA / B [TRIP A / B]

トリップメーターを 0 km にリセットしてからの走行距離を表示

TRIP A
125.0 km

TRIP B
250.0 km

表示が“----.-”になったときは、RC213V-S テクニカルショップで点検を受けてください。

トリップメーターのリセット

- 1 トリップメーターA または B を選択する。
➡ P.10
- 2 [MODE] ボタンを “0.0” が表示されるまで押し続ける。

タコメーター(数字表示)[REV]

毎分単位のエンジン回転数を r/min の単位で表示

表示範囲：0 ～ 14000 r/min(rpm)

- エンジン回転数が 14,000 rpm を超えた場合は “14000” を表示します。

REV
0 r/min

瞬間燃費 [INST. CONS.]

瞬間燃費を km/L の単位で表示

表示範囲：0.0 ～ 99.9 km/L

- 速度が 7 km/h 未満の場合は “-.-” を表示します。
- 瞬間燃費が 99.9 km/L を超えた場合は “99.9” を表示します。

INST. CONS.
12.4 km/L

上記の場合をのぞいて表示が “-.-” になったときは、RC213V-S テクニカルショップで点検を受けてください。

平均燃費 [AVG. CONS.]

平均燃費を km/L の単位で表示

表示範囲：0.0 ～ 99.9 km/L

- 平均燃費が 99.9 km/L を超えた場合は “99.9” を表示します。
- 平均燃費をリセットした場合は “-.-” を表示します。

AVG. CONS.
10.8 km/L

上記の場合をのぞいて表示が “-.-” になったときは、RC213V-S テクニカルショップで点検を受けてください。

平均燃費のリセット

[MODE] ボタンを “-.-” が表示されるまで押し続ける。

平均速度 [AVG. SPD.]

エンジンを始動してからの平均速度を表示

表示範囲：0 ～ 299 km/h

- 初期表示は “---” を表示します。
- エンジン始動後の走行距離が 0.2 km 未満の場合は “---” を表示します。
- エンジン始動後の経過時間が 16 秒未満の場合は “---” を表示します。

AVG. SPD.
60 km/h

上記の場合をのぞいて表示が “---” になったときは、RC213V-S テクニカルショッップで点検を受けてください。

経過時間 [ELAPSED]

エンジンを始動してからの経過時間を表示

表示範囲：00:00 ～ 99:59 (時間：分)

- 99:59 を超えた場合は “00:00” に戻ります。

ELAPSED
01:30

経過時間は電装システムを OFF にしたときリセットされます。

表示が “-:-” になったときは、RC213V-S テクニカルショッップで点検を受けてください。

現在の日付 [DATE]

現在の日付を表示

表示範囲：

曜日：MON ～ SUN
日：1 ～ 31
月：JAN ～ DEC
西暦：2010 ～ 2099

DATE
THU,11/JUN/2015

■ 現在の日付の設定 ➡ P.16 ⬅ P.21

走行可能距離 [RANGE] (リザーブ燃料モード時のみ)

燃料残量警告灯が点灯し、燃料残量警告のポップアップ情報が表示したとき、その時点で走行可能な距離を km の単位で表示

表示範囲：99 ～ 0 km

- 99 km 以上の場合は “99” を表示します。

RANGE
27 km

走行する環境などにより、多少の誤差が生じることがあります。

リザーブ燃料モードになったときは、早めに燃料を補給してください。

表示が “-” になったときは、RC213V-S テクニカルショップで点検を受けてください。

残燃料量 [REMAIN] (リザーブ燃料モード時のみ)

燃料残量警告灯が点灯し、燃料残量警告のポップアップ情報が表示したとき、残燃料量を L の単位で表示

表示範囲：2.5 ～ 1.0 L

- 1.0 L 以下の場合は “-” を表示します。

REMAIN
2.5 L

走行する環境などにより、多少の誤差が生じることがあります。

リザーブ燃料モードになったときは、早めに燃料を補給してください。

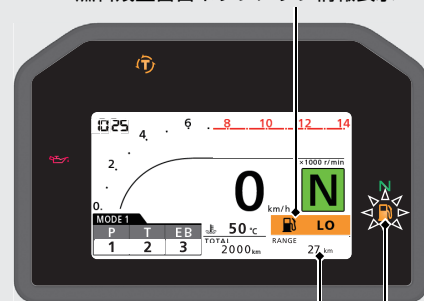
上記の場合をのぞいて表示が “-” になったときは、RC213V-S テクニカルショップで点検を受けてください。

リザーブ燃料モード

燃料残量警告灯が点灯し、燃料残量警告のポップアップ情報が表示したとき、走行可能距離に切り換わり、残燃料量が選択できるようになります。リザーブ燃料モードに切り換わったときは、早めに燃料を補給してください。

リザーブ燃料モードになったときの燃料有効残量：約 2.5 ℓ

燃料残量警告ポップアップ情報表示



走行可能距離

燃料残量警告灯

給油後、燃料タンク内のガソリンの量が一定量を超えると通常表示に戻ります。

メーター 前ページの続き

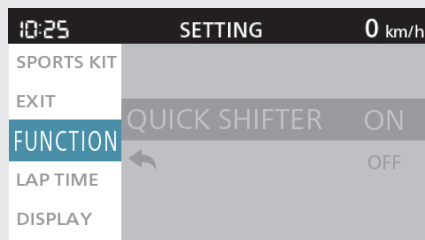
メーターの設定

設定モードから以下の項目を設定できます。

- FUNCTION ➡ P.17
 - ▶ クイックシフターの設定
- LAP TIME ➡ P.18
 - ▶ ラップタイムデータの確認
 - ▶ ラップタイムデータの消去
- DISPLAY ➡ P.19
 - ▶ ディスプレイモードの変更
 - ▶ シフトインジケータの設定
 - ▶ ディスプレイの明るさ調節
- GENERAL ➡ P.21
 - ▶ 現在の日付と時計の設定
 - ▶ ディスプレイの単位を表示
 - ▶ 工場出荷時の設定に戻す
- SERVICE ➡ P.24
 - ▶ 次回点検時期の確認
 - ▶ 車両に発生している異常の確認
 - ▶ スポーツキット装着履歴の確認
- SPORTS KIT (選択できません)

Ⅰ 設定モードへの移行

車両が停止した状態で、メインメニューが表示されるまで、**[MODE]** ボタンと **[SEL]** ボタンを押し続ける。



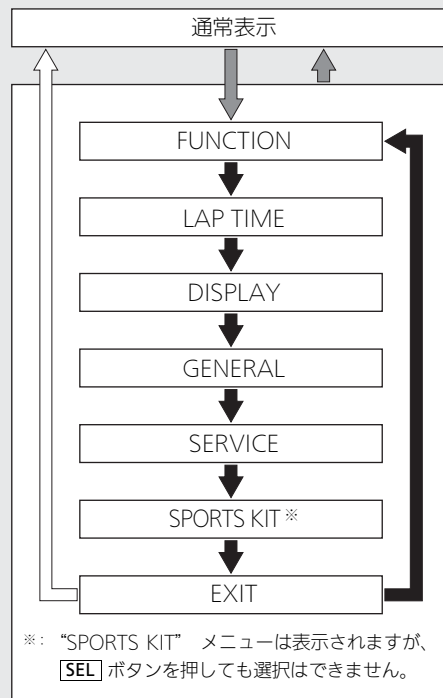
[SEL] ボタンを押し、設定したいメニューを選択し、**[MODE]** ボタンで決定する。

▶ **[SEL]** ボタンを押し続けるとメニューが早く進みます。

➡ **[SEL]** ボタンを押す

➡ **[MODE]** ボタンを押す

➡ **[MODE]** ボタンと **[SEL]** ボタンを押し続ける



Ⅰ 設定モードの終了

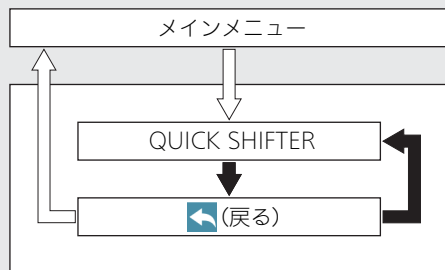
設定モードを終了するには、メインメニューで “EXIT” メニューを選択する。

[MODE] ボタンと **[SEL]** ボタンを押し続ける、または速度が約 3 km/h に達したときも、設定モードを終了します。

FUNCTION

FUNCTION メニューの設定

- 1 メインメニューから“FUNCTION”を選択し、設定画面を表示する。 ➡ P.16
- 2 [SEL] ボタンを押し、設定したいメニューを選択し、[MODE] ボタンで決定する。



➡ [SEL] ボタンを押す

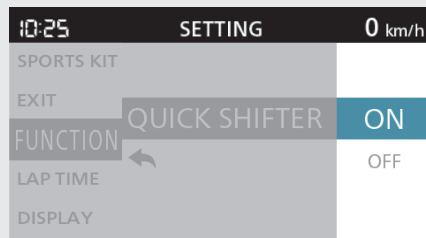
➡ [MODE] ボタンを押す

設定の終了

“戻る”メニューを選択し、メインメニューに戻る。

QUICK SHIFTER

- 1 [SEL] ボタンを押し、“ON” (作動する) または “OFF” (作動しない) を選択する。
- 2 [MODE] ボタンを押し、設定を決定する。決定と同時に前のメニューに戻る。

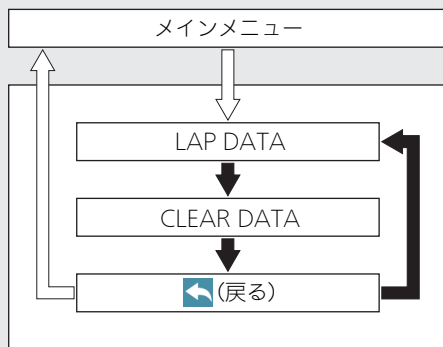


クイックシフターの使いかた ➡ P.44

LAP TIME

■ LAP TIME メニューの設定

- ① メインメニューから“LAP TIME”を選択し、設定画面を表示する。 ➡ P.16
- ② [SEL] ボタンを押し、設定したいメニューを選択し、[MODE] ボタンで決定する。



- ➡ [SEL] ボタンを押す
 ➡ [MODE] ボタンを押す

■ 設定の終了

“ (戻る) ”メニューを選択し、メインメニューに戻る。

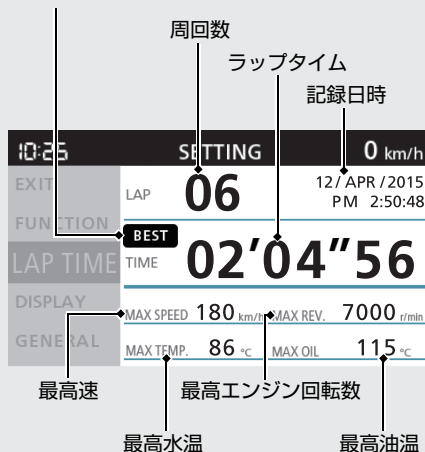
■ LAP DATA

ラップタイムデータの履歴を表示します。

次のラップタイムデータを表示するには、[SEL] ボタンを押す。

ラップタイムデータの表示を終了するには、[MODE] ボタンを押す。終了と同時に前のメニューに戻る。

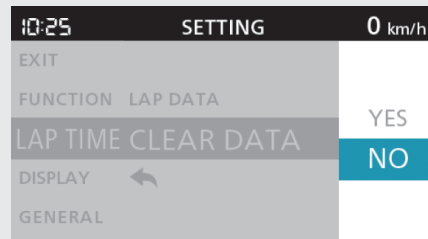
Best アイコン
 (最速ラップを表示中に表示されます。)



ラップタイマーの使いかた ➡ P.26

■ CLEAR DATA

- ① [SEL] ボタンを押し、“NO” (消去しない) または“YES” (消去する)を選択する。
- ② [MODE] ボタンを押し、設定を決定する。決定と同時に前のメニューに戻る。

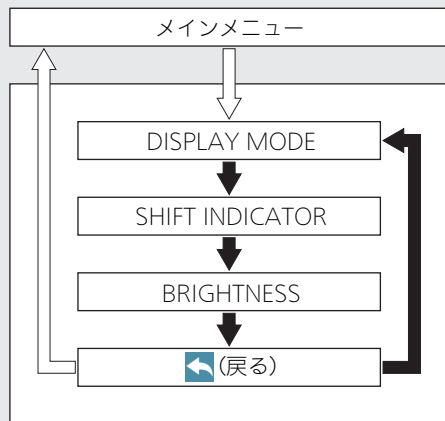


ラップタイマーの使いかた ➡ P.26

DISPLAY

■ DISPLAY メニューの設定

- 1 メインメニューから“DISPLAY”を選択し、設定画面を表示する。➡P.16
- 2 [SEL] ボタンを押し、設定したいメニューを選択し、[MODE] ボタンで決定する。



- ➡ [SEL] ボタンを押す
➡ [MODE] ボタンを押す

■ 設定の終了

“←” (戻る) メニューを選択し、メインメニューに戻る。

■ DISPLAY MODE

- 1 [SEL] ボタンを押し、“STREET”、“MECHANIC” または“CIRCUIT”を選択する。
- 2 “STREET” または“CIRCUIT”を選択した場合
[MODE] ボタンを押し、設定を決定する。決定と同時に前のメニューに戻る。
“MECHANIC”を選択した場合
[MODE] ボタンを押し、設定を決定する。決定と同時にメカニックモードを表示する。
- 3 “MECHANIC”を選択した場合
メカニックモードを終了するには、[MODE] ボタンを押す。終了と同時に前のメニューに戻る。
▶ ディスプレイモードは設定前に選択していたモードに戻ります。

10:25	SETTING	0 km/h
FUNCTION		
LAP TIME	←	CIRCUIT
DISPLAY	DISPLAY MODE	STREET
GENERAL	SHIFT INDICATOR	MECHANIC
SERVICE	BRIGHTNESS	

メカニックモード

現在の車両の状態を表示します。
以下の項目を表示します。

- エンジン回転数
- ギアポジション
- スロットルグリップの位置
- スロットルの位置
- 水温
- 油温
- 油圧
- バッテリー電圧

スロットルグリップの位置

エンジン回転数	スロットルの位置	ギアポジション
10:25	SETTING	0 km/h
FUNCTION	REV 1400 r/min	GEAR N
LAP TIME	GRIP ANGLE 0 deg.	THROTTLE ANGLE 0 deg.
DISPLAY		
GENERAL	COOLANT TEMP. 80 °C	OIL TEMP. 80 °C
SERVICE	OIL PRESSURE 80 kPa	BATTERY 12.0 V
水温	油圧	油温
		バッテリー電圧

メーター 前ページの続き

SHIFT INDICATOR

シフトインジケーターの設定ができます。

- 1 **[SEL]** ボタンを押し、“OFF”（作動しない）またはシフトインジケーターが点滅を開始するエンジン回転数を選択する。
 - ▶ **[SEL]** ボタンを押し続けるとメニューが早く進みます。
 - ▶ エンジン回転数は 200 r/min(rpm) ずつ進みます。
 - ▶ 設定範囲：
4000 ～ 14000 r/min(rpm)
- 2 **[MODE]** ボタンを押し、設定を決定する。決定と同時に前のメニューに戻る。

0:25		SETTING	0 km/h
FUNCTION			11000
LAP TIME		DISPLAY MODE	11200
			11400
DISPLAY		SHIFT INDICATOR	11600 r/min
GENERAL		BRIGHTNESS	11800
SERVICE		←	12000
			12200

シフトインジケーターについて ➡ P.33

BRIGHTNESS

明るさを自動調節または 8 段階に調節できます。

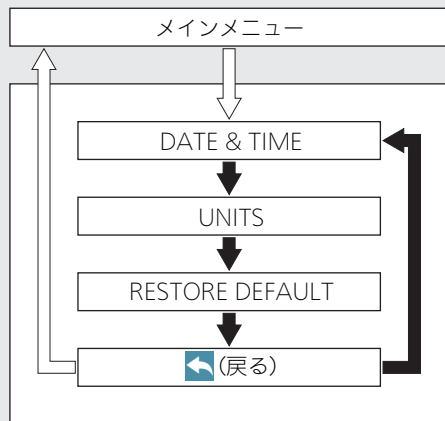
- 1 **[SEL]** ボタンを押し、“AUTO”（自動調節）または明るさを選択する。
 - ▶ **[SEL]** ボタンを押し続けるとメニューが早く進みます。
 - ▶ 設定範囲：1（暗い）～ 8（明るい）
- 2 **[MODE]** ボタンを押し、設定を決定する。決定と同時に前のメニューに戻る。

0:25		SETTING	0 km/h
FUNCTION			6
LAP TIME		SHIFT INDICATOR	7
			8
DISPLAY		BRIGHTNESS	AUTO
GENERAL		←	1
SERVICE		DISPLAY MODE	2
			3

GENERAL

GENERAL メニューの設定

- 1 メインメニューから“GENERAL”を選択し、設定画面を表示する。➡P.16
- 2 [SEL] ボタンを押し、設定したいメニューを選択し、[MODE] ボタンで決定する。



設定の終了

“←” (戻る) メニューを選択し、メインメニューに戻る。

DATE & TIME

- 1 [SEL] ボタンを押し、年の 2 桁目(10 の位)を選択する。
- 2 [MODE] ボタンを押し、設定を決定する。決定と同時にカーソルが 1 桁目(1 の位)に移動する。

iD:25	SETTING	0 km/h
LAP TIME		
DISPLAY		
GENERAL	2015 / JUN / 11	
SERVICE	AM 10 : 25	
SPORTS KIT		

- 3 [SEL] ボタンを押し、年の 1 桁目(1 の位)を選択する。
- 4 [MODE] ボタンを押し、設定を決定する。決定と同時にカーソルが月に移動する。
- 5 [SEL] ボタンを押し、月を選択する。
- 6 [MODE] ボタンを押し、設定を決定する。決定と同時にカーソルが日に移動する。

- 7 [SEL] ボタンを押し、日を選択する。
- 8 [MODE] ボタンを押し、設定を決定する。決定と同時にカーソルが“AM”または“PM”に移動する。
- 9 [SEL] ボタンを押し、“AM”または“PM”を選択する。
- 10 [MODE] ボタンを押し、設定を決定する。決定と同時にカーソルが時に移動する。
- 11 [SEL] ボタンを押し、時を選択する。
- 12 [MODE] ボタンを押し、設定を決定する。決定と同時にカーソルが分に移動する。
- 13 [SEL] ボタンを押し、分を選択する。
- 14 [MODE] ボタンを押し、設定を決定する。決定と同時に前のメニューに戻る。

[SEL] ボタンを押し続けるとメニューが早く進みます。

メーター 前ページの続き

UNITS

ディスプレイの単位を表示します。単位の切り換えはできません。

- ① **[SEL]** ボタンを押し、“SPEED”、“TEMP.” または “FUEL CONS.” を選択する

iD:25 SETTING 0 km/h	
LAP TIME	
DISPLAY DATE & TIME	←
GENERAL UNITS	SPEED
SERVICE RESTORE DEFAULT	TEMP.
SPORTS KIT ←	FUEL CONS.

- ② **[MODE]** ボタンを押し、設定を決定する。
ディスプレイの単位を表示します。
▶ディスプレイの単位を表示したときに、“mph”、“°F” または “L/100 km” が表示されますが、**[SEL]** ボタンを押しても選択はできません。

iD:25 SETTING 0 km/h	
LAP TIME	
DISPLAY DATE & TIME	
GENERAL UNITS	km/h
SERVICE RESTORE DEFAULT	mph
SPORTS KIT ←	

選択できません

- ③ **[MODE]** ボタンを押し、前のメニューに戻る。
④ “←” (戻る)メニューを選択し、“GENERAL” メニューの “UNITS” に戻る。

I RESTORE DEFAULT

メーターの設定を工場出荷時の設定値に戻せます。

① **SEL** ボタンを押し、“NO”（戻さない）または“YES”（戻す）を選択する。

② “NO” を選択した場合

MODE ボタンを押し、設定を決定する。決定と同時に前のメニューに戻る。メーターの設定値は保持される。

“YES” を選択した場合

MODE ボタンを押し、設定を決定する。決定と同時に確認画面を表示する。



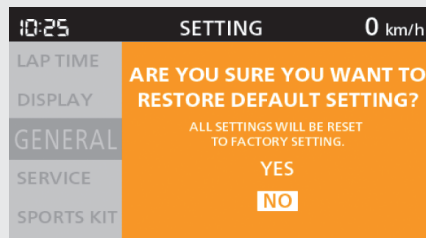
③ **SEL** ボタンを押し、“NO”（戻さない）または“YES”（戻す）を選択する。

④ “NO” を選択した場合

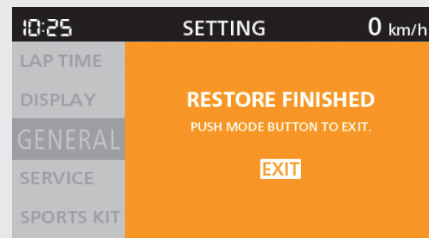
MODE ボタンを押し、設定を決定する。決定と同時に“GENERAL”メニューの“RESTORE DEFAULT”に戻る。メーターの設定値は保持される。

“YES” を選択した場合

MODE ボタンを押し、設定を決定する。メーターは工場出荷時の設定値に戻る。



⑤ **MODE** ボタンを押し、“EXIT”を選択する。選択と同時に“GENERAL”メニューの“RESTORE DEFAULT”に戻る。



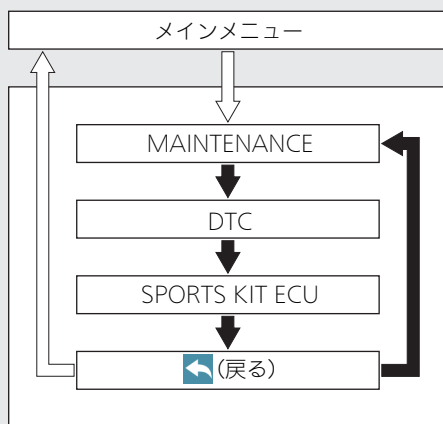
工場出荷時の設定値

- QUICK SHIFTER : ON
- LAP DATA : 消去する
- DISPLAY MODE : STREET
- SHIFT INDICATOR : 11600 r/min (rpm)
- BRIGHTNESS : AUTO
- ライティングモード : 各設定値は初期設定に戻る ➡ P.40

SERVICE

■ SERVICE メニューの設定

- 1 メインメニューから “SERVICE” を選択し、設定画面を表示する。 ➡ P.16
- 2 [SEL] ボタンを押し、設定したいメニューを選択し、[MODE] ボタンで決定する。



➡ [SEL] ボタンを押す

➡ [MODE] ボタンを押す

■ 設定の終了

“←” (戻る) メニューを選択し、メインメニューに戻る。

■ MAINTENANCE

次回点検時期の確認ができます。

iD:25 SETTING 0 km/h		
DISPLAY	DISTANCE	DATE
GENERAL	- 500 km	JUL / 2015
SERVICE	- 500 km	JUL / 2015
SPORTS KIT	- 2500 km	SEP / 2015
EXIT		

→ 次回のクラッチ点検時期

→ 次回のエンジンオイル交換時期

→ 次回の定期点検時期

前のメニューに戻るには、[MODE] ボタンを押す。

表示範囲：

DISTANCE：

次回の定期点検時期：

-12000 ～ +99999 km

次回のエンジンオイル交換時期：

-6000 ～ +99999 km

次回のクラッチ点検時期：

-3000 ～ +99999 km

▶ 0 km を超えると “-” 記号は “+” 記号に変化します。

DATE：

月：JAN ～ DEC

年：2010 ～ 2099

以下の時期に達したとき、メンテナンスポップアップ情報表示が通常画面に表示されます。 ➡ P.28

- 各点検時期の “DISTANCE” 表示が “-500 km” に達したとき、または “DATE” 表示が 1 か月前に達したとき

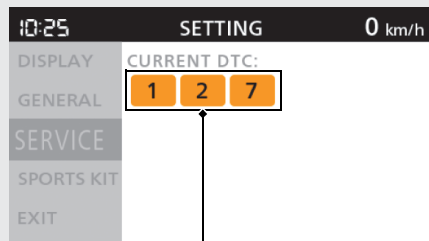
50℃	-500 km JUL/2015	メンテナンス ポップアップ 情報表示
TOTAL 500 km	REV 0 r/min	
50℃	-500 km JUL/2015	
TOTAL 500 km	REV 0 r/min	
50℃	-500 km SEP/2015	
TOTAL 2500 km	REV 0 r/min	

各点検時期は、点検整備実施後、RC213V-S テクニカルショップが次回の点検時期を設定します。

■ DTC

車両に発生している異常の確認ができます。

故障コードが表示している場合は何らかの異常が考えられます。高速走行をさけ、直ちにRC213V-S テクニカルショップにご相談ください。この場合は通常画面に故障ポップアップ情報表示が表示されます。 ➡ P.28

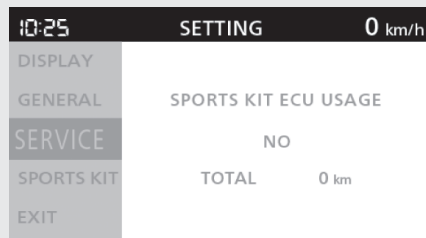


故障コード

前のメニューに戻るには、**MODE** ボタンを押す。

■ SPORTS KIT ECU

スポーツキット装着履歴の確認ができます。



NO：過去または現在において、スポーツキットは装着されていません。

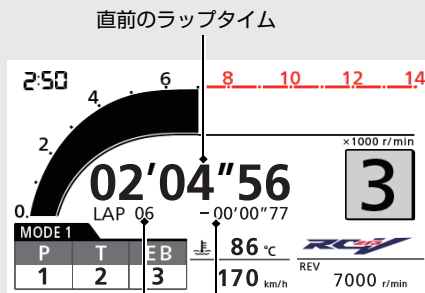
YES：過去または現在において、スポーツキットは装着されています。

前のメニューに戻るには、**MODE** ボタンを押す。

メーター 前ページの続き

ラップタイマー

サーキットモードではラップタイムデータの記録ができます。 ➡P.16 ➡P.19

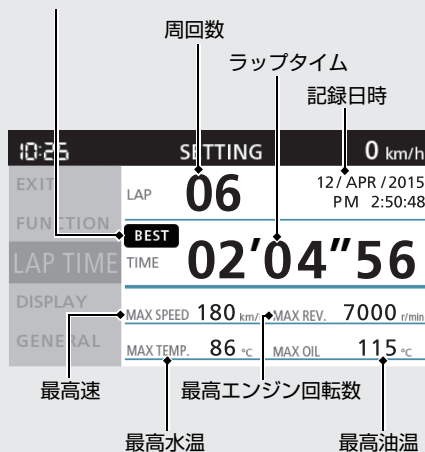


設定モードでは記録されたラップタイムデータの確認と消去ができます。 ➡P.16

➡P.18

Best アイコン

(最速ラップを表示中に表示されます。)



ラップタイムデータには、ラップタイム、最高速、最高エンジン回転数、最高水温、最高油温が含まれます。

表示範囲：

直前の周回数：0 ～ 50

▶ 50 を超えた場合は “50” を繰り返して表示します。

直前のラップタイム：

00'00"00 ～ 99'59"99

▶ 99'59"99 を超えた場合は “00'00"00” に戻ります。

ストップウォッチ：

00'00"00 ～ 99'59"99

▶ 99'59"99 を超えた場合は “00'00"00” に戻ります。

最速ラップとのタイム差：

-99'59"99 ～ 00'00"00 ～ +99'59"99

最高速：0 ～ 299 km/h

最高エンジン回転数：

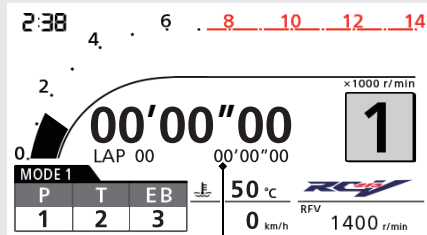
0 ～ 20000 r/min(rpm)

最高水温：-40 ～ 150 °C

最高油温：-30 ～ 200 °C

I ラップタイムの計測

- ① “DISPLAY MODE” メニューから “CIRCUIT” を選択する。 ➡ P.16
- ② 計測を開始するには、**[SEL]** ボタンを押す。
▶ ストップウォッチが計測を開始します。



ストップウォッチ

- ③ 周回ごとに**[SEL]** ボタンを押し、ラップタイムデータを記録する。
▶ ストップウォッチが最速ラップとのタイム差に切り換わります。表示は 10 秒後にストップウォッチに戻ります。
▶ 直前の周回数と直前のラップタイムは、記録したラップタイムデータを表示します。
▶ 2 秒以内に**[SEL]** ボタンを押した場合、ラップタイムデータは記録されません。
▶ 50 周を超えた場合、直前の周回数は “LAP 50” を繰り返して表示します。
▶ ライディングモードの設定中は、**[SEL]** ボタンを押してもラップタイムデータは記録されません。

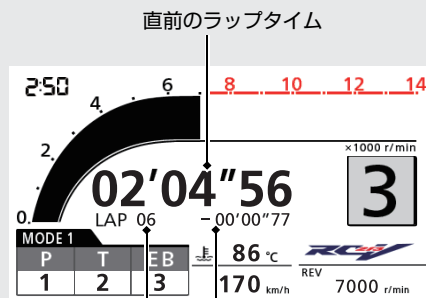
- ④ 計測を終了するには、**[SEL]** ボタンを押す続ける。

計測の再開

- 計測を再開するには、再度**[SEL]** ボタンを押す。
▶ 最後に記録した週の次の周から、計測を開始します。

I ラップタイムデータの確認と消去

- 設定モードで “LAP TIME” を選択する。 ➡ P.16 ➡ P.18



直前のラップタイム

最速ラップとのタイム差

直前の周回数

メーター 前ページの続き

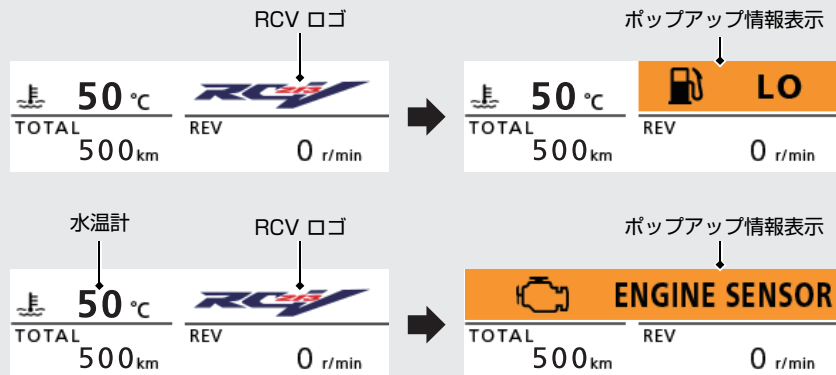
ポップアップ情報表示

以下の場合、RCV ロゴ、または RCV ロゴと水温計がポップアップ情報表示に変化する。

- メンテナンスポップアップ情報表示：
車両の点検時期が近づいた場合
- ヘルプポップアップ情報表示：
運転者へ役立つメッセージがある場合
- 故障ポップアップ情報表示：
車両に何らかの異常がある場合

複数のポップアップ情報表示がある場合、ポップアップ情報表示は交互に表示される。

車両に何らかの異常がある場合、故障ポップアップ情報表示は優先して表示される。



メンテナンスポップアップ情報表示

表示	説明	対処
 -500 km JUL/2015	定期点検時期が近づいたときに表示	RC213V-S テクニカルショップで点検を受けてください。
 -500 km JUL/2015	エンジンオイル交換時期が近づいたときに表示	RC213V-S テクニカルショップでオイル交換を行ってください。
 -500 km SEP/2015	クラッチの点検時期が近づいたときに表示	RC213V-S テクニカルショップで点検を受けてください。

ヘルプポップアップ情報表示

表示	説明	対処
 SIDE STAND	サイドスタンドが下りているときに表示	サイドスタンドを上げてください。
 LO	燃料有効残量が約 2.5 l になったときに表示	燃料を補給してください。 ➡ P. 46
 LO	油温が約 40 °C 以下のときに表示	エンジンが暖まるまで待ってください。
 LOST	Honda SMART Key の紛失や電池の消耗、強い電波やノイズのある場所等、通信不良時に表示	Honda SMART Key ページをご確認ください。 ➡ P. 36
 LO	Honda SMART Key の電池が消耗したときに表示	Honda SMART Key の電池を交換してください。 ➡ P. 71

故障ポップアップ情報表示

表示		説明	対処
 ENGINE SENSOR	 SPEED SENSOR	車両に何らかの異常がある場合に表示	高速走行をさけ、直ちに RC213V-S テクニカルショップにご相談ください。
 INJECTOR	 TBW SENSOR		
 ECU	 TBW ACTUATOR		
 EXH.ACTUATOR	 CAN LINE		
 GEAR SENSOR			

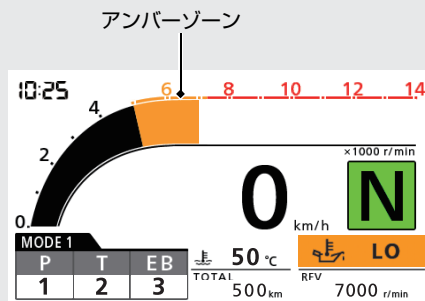
暖機モード

暖機モード中は、エンジン回転数が設定値を超えた場合に、タコメーター(エンジン回転計)の表示がアンバー色に変化します。

エンジン回転数を設定値以下におさえ、アンバーゾーンに入らないように運転してください。

▶ 暖機モード中は、エンジン回転数がアンバーゾーンを超えないように制限されます。

油温	設定値 (アンバーゾーン)
0 ~ 10 °C	5,000 ~ 7,200 rpm



油温が 10 °C 以上になったとき、暖機モードは解除され通常表示に戻ります。

警告灯／表示灯

警告灯／表示灯が点灯すべきときに点灯しない場合は、RC213V-S テクニカルショップで点検を受けてください。

トルクコントロール警告灯

- 電装システムを起動すると点灯し、速度が約 5 km/h に達すると消灯
同時に、トルクコントロールが作動可能な状態になる
- トルクコントロール作動時に点滅

走行中に点灯したときは ➡ P.76

トルクコントロール OFF 警告灯

トルクコントロールを停止状態(トルクコントロールレベルを 0)にすると点灯

方向指示器表示灯

油圧警告灯

電装システムを起動すると点灯し、エンジンを始動すると消灯

走行中またはアイドリング中に点灯したときは ➡ P.76

ハイビームパイロットランプ

(前照灯上向き表示灯)

Honda SMART Key 表示灯

電装システムを起動すると点灯し、数秒後に消灯

Honda SMART Key 表示灯が点滅したときは ➡ P.77

シフトインジケータ

➡ P.33
電装システムを起動すると点灯し、数秒後に消灯

水温警告灯

電装システムを起動すると点灯し、数秒後に消灯
走行中またはアイドリング中に点灯したときは ➡ P.75

PGM-FI 警告灯

電装システムを起動すると点灯し、数秒後に消灯

走行中またはアイドリング中に点灯したときは ➡ P.76

方向指示器表示灯

ニュートラル表示灯

トランスミッションがニュートラルの位置にあるときに点灯

燃料残量警告灯

- 電装システムを起動すると点灯し、数秒後に消灯
- 燃料がリザーブのみになると点灯

燃料残量警告灯が点灯したときの燃料有効残量：約 2.5 ℓ
点灯したときは ➡ P.15

シフトインジケータ

シフトインジケータは、エンジン回転数に応じて点灯または点滅します。

1 目目のインジケータは、設定値の800 rpm 前に達したときに点灯します。

2 ～ 4 目目のインジケータは、エンジン回転数が 200 rpm 上がるごとに点灯していきます。

設定値に達したときに、全てのインジケータが点滅します。

表示例

設定値：11,600 rpm

0 ～ 10,800 rpm 全てのインジケータが消灯	
10,800 rpm 1 目目のインジケータが点灯	
11,000 rpm 2 目目のインジケータが点灯	
11,200 rpm 3 目目のインジケータが点灯	
11,400 rpm 4 目目のインジケータが点灯	
11,600 rpm 全てのインジケータが点滅	

シフトインジケータの設定

シフトインジケータが点滅を開始するエンジン回転数を設定できます。 ➡P.16

➡P.19 ➡P.20

初期設定：11600 r/min(rpm)

設定範囲：4000 ～ 14000 r/min(rpm)

点灯回転数の間隔：200 r/min(rpm)

スイッチ

MODE ボタン

ディスプレイの操作に使用 ➡P.10

ライディングモードの切り換えまたは設定にも使用

➡P.41 ➡P.42

≡D パッシングライトスイッチ (追い越し合図)

ヘッドライトが下向きの際のみ作動

ヘッドライト (前照灯) 上下切換スイッチ

- ≡D (HI) : ヘッドライトが上向き
- ≡D (LO) : ヘッドライトが下向き

⇄ ウィンカー (方向指示器) スイッチ

▶ 解除はスイッチを押して行います。

📢 ホーンスイッチ

SEL ボタン

ディスプレイの操作に使用 ➡P.10

ラップタイマーの操作にも使用 ➡P.27

エンジンストップスイッチ

- ⊙ (Run) : エンジンを開始できます。
- ⊗ (Off) : エンジンを停止し、電装システムを OFF にできます。

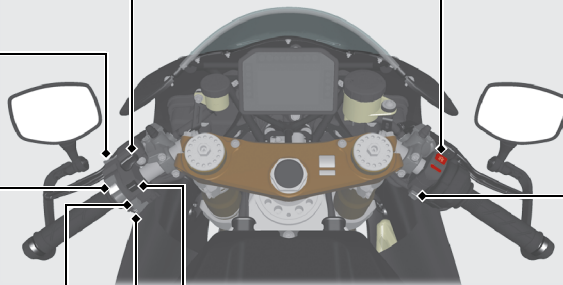
➡P.43

🔑 スタータースイッチ

電装システムの起動とスターターモーターの作動に使用 ➡P.43

🔌 ON / OFF スイッチ

Honda SMART Key System の ON、OFF の切り換えと、現在の作動状態の確認に使用 ➡P.37



ハンドルロック

盗難予防のため、駐車するときは必ずハンドルロックをかけましょう。

U 字ロックなどの使用も推奨します。

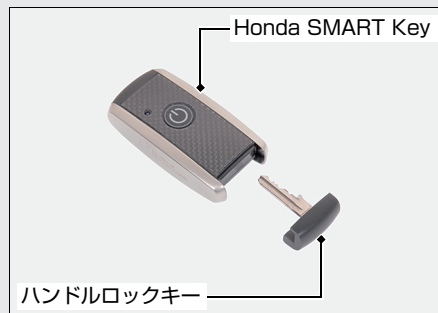
▶ U 字ロックなどを使用するときは、ホイールを損傷させないように注意してください。

Ⅰ かけかた

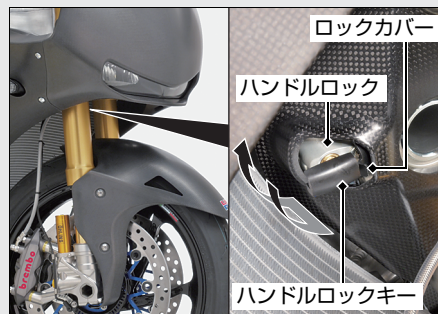
- ① ハンドルを左にいっぱいにする。



- ② ハンドルロックキーを Honda SMART Key から取り外す。

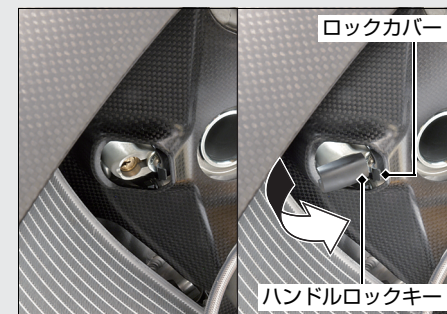


- ③ ロックカバーを開ける。
- ④ ハンドルロックキーをハンドルロックに差し込み、左に回しながらを押し込み、右に回す。
▶ ロックがかかりにくい場合は、ハンドルを左右に軽く動かしてください。
- ⑤ ハンドルロックからキーを抜き、Honda SMART Key に取り付け。



Ⅱ 外しかた

- ① ハンドルロックキーをハンドルロックに差し込み、左に回す。
- ② ハンドルロックからキーを抜き、Honda SMART Key に取り付け。
- ③ ロックカバーを閉じる。



Honda SMART Key System

Honda SMART Key System とは、作動範囲内において認証(車両と Honda SMART Key の間で相互認証を行い、登録された Honda SMART Key であることを確認する)を行うことで、Honda SMART Key を取り出すことなく車両の操作が行えるシステムです。

Honda SMART Key System のアンテナ位置について

Honda SMART Key System は、車両と Honda SMART Key の間で電波による通信を行っています。

発信機



⚠ 注意

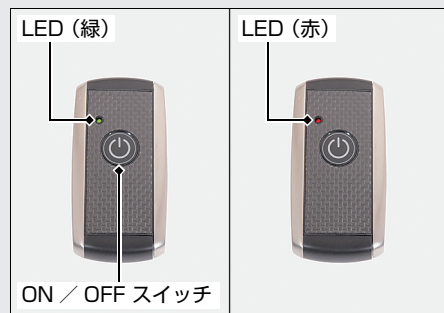
車両から Honda SMART Key System の電波が発信される際、植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器の作動に影響を与える可能性があります。車両に搭載されている発信機から 22 cm 以内に植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器が近づかないようにしてください。

その他の医療用電子機器を使用している方は、医師や医療用電子機器製造業者に影響を確認してからご使用ください。

Honda SMART Key System の切り換え

■ Honda SMART Key System の ON、OFF の切り換えかた

Honda SMART Key の LED の色が変わるまで、ON / OFF スイッチを押し続ける。



■ Honda SMART Key System の作動状態の確認

Honda SMART Key の ON / OFF スイッチを押す。LED が現在の作動状態を表示します。

緑 (ON) : 認証作動可能状態です。

赤 (OFF) : 認証作動停止状態です。

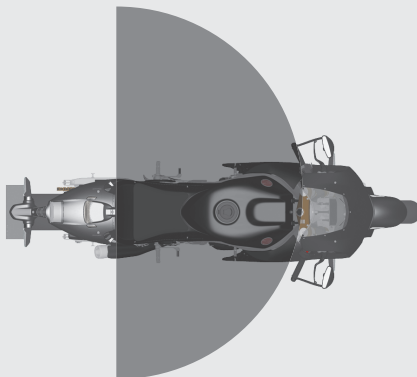
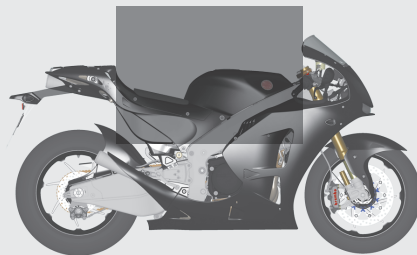
Honda SMART Key System 前ページの続き

作動範囲

Honda SMART Key System は、微弱な電波を使用しています。よって下記のような使用環境では作動範囲が広くなったり、狭くなったりすることや、正常に作動しないことがあります。

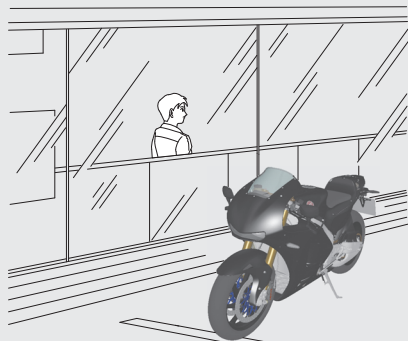
- Honda SMART Key の電池が消耗しているとき
- 近くにテレビ塔や発電所、放送局、空港など強い電波を発生する設備があるとき
- 無線機や携帯電話などの無線通信機器やノートパソコンなどを、Honda SMART Key と一緒に携帯しているとき
- Honda SMART Key が金属製のものに接したり、覆われているとき

イラストのグレーで示した範囲内で通信を行います。



お店のガラス越しや家の塀越しなどの隔てた場所でも車両を駐車した場所が Honda SMART Key System の作動範囲内にあると、他の人でもエンジン始動が可能です。このようなときは、Honda SMART Key System を OFF にしてください。

Honda SMART Key System の ON、OFF の切り換えかた ➡ P.37



Honda SMART Key が作動範囲にあると、Honda SMART Key を携帯していない人でもエンジンの始動が可能ですので注意してください。

Honda SMART Key は運転者が必ず携帯してください。

電装システムが起動している場合、認証された Honda SMART Key を携帯していない人でも車両の操作が可能です。

ガソリンスタンドやお店などで車両から離れたときは、必ず電装システムを OFF にし、ハンドルロックをかけ、Honda SMART Key を携帯した状態で離れてください。

ハンドルロックのかけかた ➡ P.35

Honda SMART Key System が作動しないときは ➡ P.78

ライディングモード

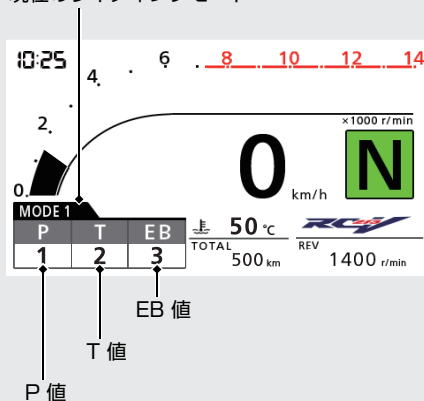
ライディングモードの切り換えができます。
ライディングモードはP値、T値およびEB値で構成されています。

P値： エンジン出力レベル

T値： トルクコントロールレベル

EB値： エンジンブレーキレベル

現在のライディングモード



初期設定

ライディングモード	P 値	T 値	EB 値
モード 1	1	2	3
モード 2	2	2	3
モード 3	2	5	3
モード 4	2	8	2
モード 5	3	8	1

路面の状態に応じ、ライディングモードを選択する。

▶ モード 1 は、グリップ力の高い路面に最も適しています。

▶ モード 5 は、グリップ力の低い路面に最も適しています。

各ライディングモードの設定値は変更できません。 ➡ P.42

P 値(エンジン出力レベル)

P 値は 3 段階に調節できます。

設定範囲：1～3

▶ レベル 1 は、最も高出力になります。

▶ レベル 3 は、最も低出力になります。

T 値(トルクコントロールレベル)

T 値は 10 段階に調節できます。

設定範囲：0～9

▶ レベル 1 は、トルクコントロールレベルが最小になります。

▶ レベル 9 は、トルクコントロールレベルが最大になります。

▶ レベル 0 は、トルクコントロールが OFF になります。

EB 値(エンジンブレーキレベル)

EB 値は 4 段階に調節できます。

設定範囲：1～4

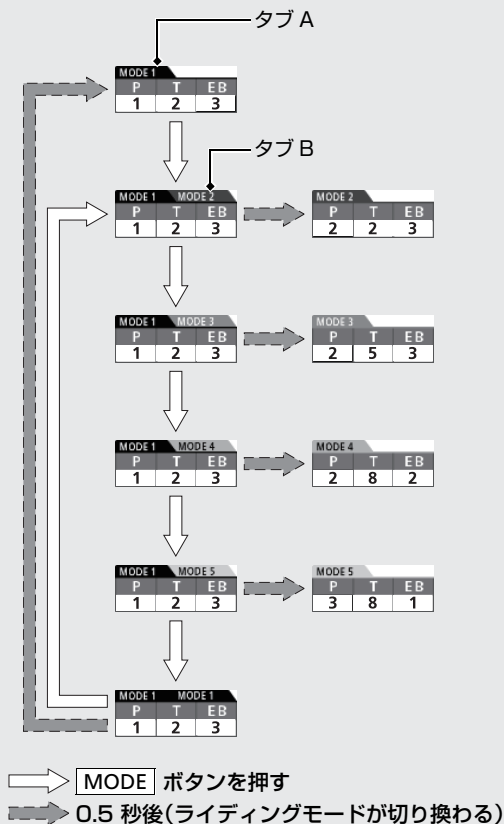
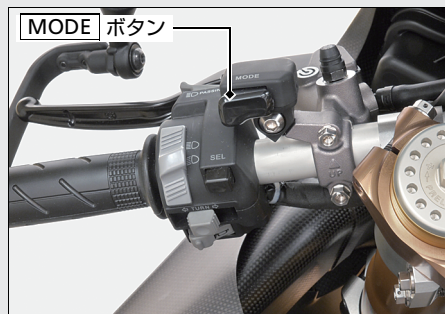
▶ レベル 1 は、エンジンブレーキの効果が強くなります。

▶ レベル 4 は、エンジンブレーキの効果が弱くなります。

ライディングモードの切り換えかた

スロットルグリップを完全に閉じた状態で、**MODE** ボタンを押してライディングモードを選択する。選択しているライディングモードはタブ B に表示します。

▶ ライディングモードは 0.5 秒後に切り換わり、タブ A は選択したモードに変化します。

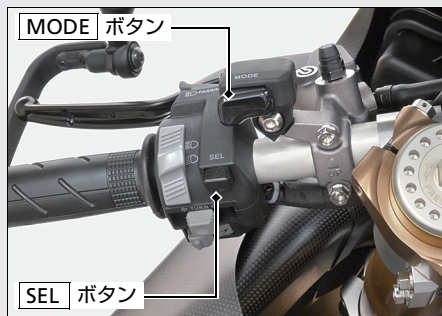


ライディングモード 前ページの続き

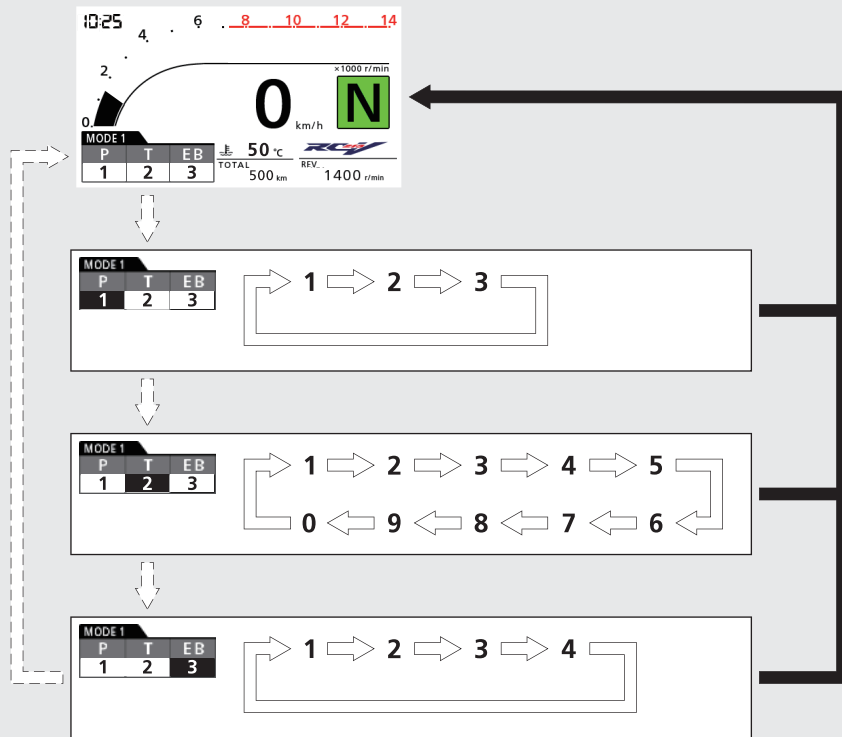
ライディングモードの設定

各ライディングモードのP 値、T 値およびEB 値の設定ができます。

- ① 設定したいライディングモードを選択する。
➡ P. 41
- ② P 値が選択されるまで、**MODE** ボタンを押し続ける。
- ③ **MODE** ボタンを押し、P 値を選択する。
- ④ T 値が選択されるまで、**MODE** ボタンを押し続ける。
- ⑤ **MODE** ボタンを押し、T 値を選択する。
- ⑥ EB 値が選択されるまで、**MODE** ボタンを押し続ける。
- ⑦ **MODE** ボタンを押し、EB 値を選択する。
- ⑧ 通常表示に戻るまで、**MODE** ボタンを押し続ける。



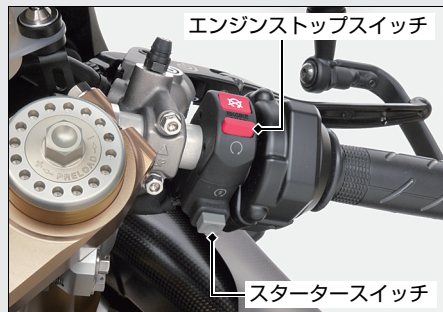
途中で設定を終了するには、**SEL** ボタンを押してください。



- ➡ **MODE** ボタンを押す
- ➡➡ **MODE** ボタンを押し続ける
- ➡ **SEL** ボタンを押す

エンジン始動

始動するには、エンジン・冷却水の温度にかかわらず、次の手順で行ってください。



この車は、Honda SMART Key System を装備しています。運転する際は、必ず Honda SMART Key を携帯してください。

➡P.38

アドバイス

- ・スターターモーターが作動してもエンジンがかからないときは、一度電装システムを OFF にしてください。その後バッテリー電圧回復のため 10 秒ほど経ってからやり直してください。
- ・無用な空ぶかしや長時間のアイドリングはエンジンやマフラー、触媒装置に悪影響を与えます。
- ・万一転倒した場合は、一旦電装システムを OFF にしてください。再度走行を行う際は、各部の損傷状態や、走行に支障が無いかを十分に確認してください。

- ① ハンドルロックを外す。 ➡P.35
- ② Honda SMART Key System が作動可能状態であることを確認する。 ➡P.37
- ③ スタータースイッチを押す。(電装システムが起動する。)
- ④ ギアをニュートラルにする。(表示灯点灯)
▶ ギアが入った状態では始動しません。ただし、サイドスタンドが格納されている状態でクラッチレバーを握れば始動します。
- ⑤ エンジンストップスイッチを  (Run) にする。
- ⑥ スロットルグリップを閉じたまま、スタータースイッチを押す。
▶ スタータースイッチを押し続けしないでください。

エキゾーストパイプの接続部を点検し、排気ガス漏れがないことを確認してください。

➡P.85

Ⅰ エンジンがかからないときは

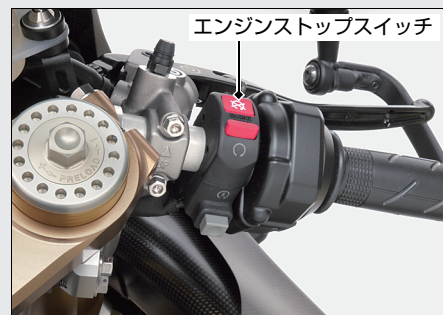
次の方法を試してください。

- ① スロットルグリップを全開にし、スタータースイッチを押す。
- ② 通常手順(②～⑥)でエンジンをかける。
- ③ エンジンがかかり、エンジン回転が安定しない場合はスロットルグリップを少し開ける。
- ④ エンジンがかからないときは 10 秒間待つから、① ② の手順を繰り返す。

Ⅰ それでも始動できないときは ➡P.74

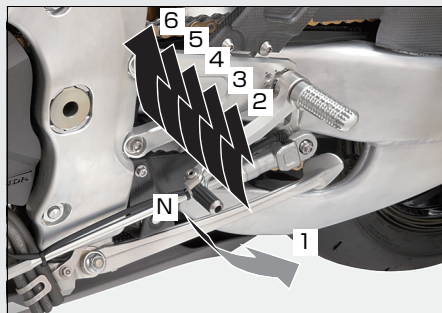
エンジンの止めかた

エンジンストップスイッチを  (Off) にする。電装システムが OFF になり、エンジンが停止します。



ギアチェンジ

この車のトランスミッションは、下1速、上5速シフトの6速リターン式です。速度に応じてギアを切り換える必要があります。



走行前に、サイドスタンドが完全に納まっているか確認してください。

サイドスタンドを出したままギアチェンジを行うと、エンジンが停止します。

速度範囲

1速	0 ~ 90 km/h
2速	40 ~ 115 km/h
3速	50 ~ 140 km/h
4速	60 ~ 155 km/h
5速	70 ~ 170 km/h
6速	80 km/h 以上

シフトダウンについて

追い越しなど、強力な加速が必要なときはシフトダウンをします。高い速度でのシフトダウンは、尻振りなどの原因や、走行安定性を損なうほか、エンジンやトランスミッションに悪影響を与えます。次の速度内で行ってください。

シフトダウン可能限界速度

6速→5速	170 km/h 以下
5速→4速	155 km/h 以下
4速→3速	140 km/h 以下
3速→2速	115 km/h 以下
2速→1速	90 km/h 以下

クイックシフター

クイックシフターシステムは、加速中(エンジン回転数 2,000 rpm 以上)のシフトアップ時にクラッチ操作を行わずにシフトアップをすることができます。

- ギアポジション表示が“-”になったときは、クイックシフターは作動しません。
- クイックシフターが正常に動作しないときでも、クラッチ操作によるシフトチェンジが可能です。

シフトアップ

クラッチ、およびスロットル操作を行わずにシフトアップをする。

シフトダウン

必ずクラッチ操作を行いシフトダウンをする。

クイックシフターシステムの ON、OFF の切り換えかた ➡ P.16 ➡ P.17

クラッチに対する発進時の注意

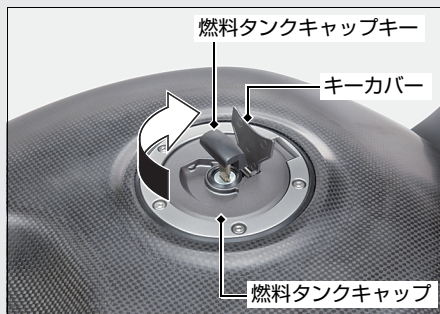
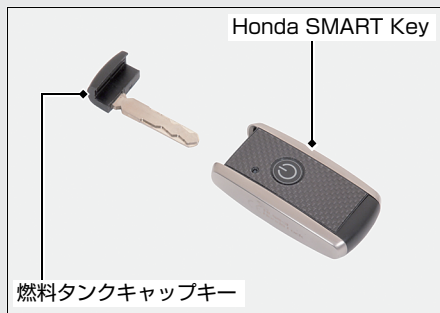
クラッチの性能低下を防ぐため、以下の条件での連続使用はさけてください。

- エンジン回転数が 7,000 rpm 以上での発進
- 3 秒間以上の半クラッチ操作をともなう発進

上記のいずれかの条件で発進操作を行った場合、クラッチが冷えるまで 10 分以上待ってください。

上記のいずれかの条件で発進操作を複数回行った場合は、点検整備時期にかかわらずクラッチの点検を受けてください。

燃料補給



燃料がにじみ出ることがあるので、給油口の下端以上入れないでください。

使用燃料：無鉛プレミアムガソリン

タンク容量：16 ℓ

▶ 必ず無鉛プレミアムガソリンを使用してください。

■ 燃料についての注意 ➡ P.6

燃料タンクキャップの開けかた

- ① エンジン进行止める。
- ② 燃料タンクキャップキーを Honda SMART Key から取り外す。
- ③ キーカバーを開け、燃料タンクキャップキーを差し込み右に回して、燃料タンクキャップを開ける。

燃料タンクキャップの閉じかた

- ① 燃料タンクキャップを手で確実に押してロックする。
- ② 燃料タンクキャップキーを抜き、キーカバーを閉じる。
▶ キャップがロックされないと、キーは抜けません。
- ③ 燃料タンクキャップキーを Honda SMART Key に取り付ける。

警告

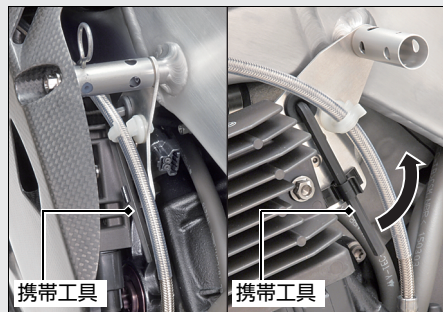
ガソリンは燃えやすいため、ヤケドを負ったり、爆発して重大な傷害に至る可能性があります。

☑ 燃料補給およびガソリンの取り扱い P. 6

その他装備の使いかた

携帯工具

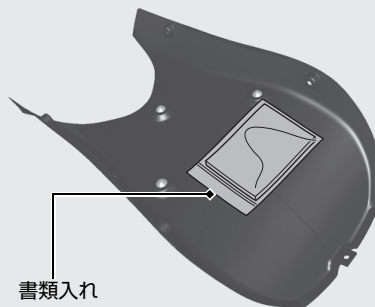
携帯工具はフレームの左側にあります。



書類入れ

書類入れはシート裏側にあります。

- ▶ 取扱説明書とメンテナンスノートは書類入れに収納できません。乗車時は取扱説明書とメンテナンスノートを携帯してください。



Ⅱ シートの取り外しかた ➡ P.56

メンテナンス

メンテナンスを行う前に必ず「メンテナンスの基礎知識」をお読みください。

また、サービスデータについては「スペック」を参照ください。

RC213V-S は車両のメンテナンスに関して通常の市販量産車とは異なります。

日常点検を除く全ての点検整備は高度な技術が必要となるため RC213V-S の専用工具を備えた RC213V-S テクニカルショップでのみ実施してください。

メンテナンスの基礎知識.....P. 49

主要部品の脱着方法

シート P. 56

トップシェルター P. 57

右ミドルフェアリング P. 58

ロアーフェアリング P. 59

エンジンオイル P. 60

冷却水 P. 61

ブレーキ P. 62

ドライブチェーン P. 64

クラッチ P. 65

スロットル P. 66

その他の調整 P. 67

ブレーキレバーの距離調整 P. 67

クラッチレバーの距離調整 P. 67

フロントサスペンションの調整 P. 68

リアサスペンションの調整 P. 69

ステアリングダンパーの調整 P. 70

ステップの調整 P. 70

Honda SMART Key P. 71

メンテナンスの基礎知識

メンテナンスの重要性

お車をご使用の方の安全と車を快適にご使用いただくために、日常のお車の使用状況に応じて、お客様の判断で適時行っていただく日常点検と、1年ごと(12か月ごと)、2年ごと(24か月ごと)の定期点検整備が義務付けられています。安全快適にお乗りいただくために、必ず実施してください。

警告

誤った点検整備や、不適当な整備、未修理は、転倒事故などを起こす原因となり、死亡または重大な傷害に至る可能性があります。

- ・点検整備は、取扱説明書・メンテナンスノートに記載された点検方法・要領を守り、必ず実施してください。
- ・異状箇所は乗車前に修理してください。

安全なメンテナンスのために

メンテナンスにあたっては、次のことに注意してください。

- エンジンを停止し、電装システムを OFF にした状態で行う
- 平坦地で足場のしっかりとした場所で行う
- エンジン、マフラー、ブレーキなど高温になる部分はヤケドのおそれがあるので、冷えるまで触れない
- エンジンを始動して作業をする場合は、換気を十分に行う

日常点検

安全快適にご使用いただくために法令に従って、日常のお車の使用状況に応じて、お客様の判断で適時行う点検です。

点検時期の目安としては、長距離走行や洗車時、給油時などに実施し、その結果をメンテナンスレコードに記入してください。異音や異状を感じたときは、直ちにRC213V-S テクニカルショップにご相談ください。

■ 日常点検項目

この車には下記の日常点検項目が適用されます。

● ブレーキ

- ・レバーの遊び(油圧式)
- ・ペダルの遊び(油圧式)
- ・ブレーキの効き具合
- ・ブレーキ液の量

● タイヤ

- ・空気圧
- ・亀裂、損傷
- ・異状な摩耗
- ・溝の深さ

● エンジン

- ・冷却水の量
- ・エンジンオイルの量
- ・かかり具合、異音
- ・低速、加速の状態

● 灯火装置および方向指示器

- 運行において異状が認められた箇所
- ドライブチェーンの緩み(Honda 指定)

定期点検

安全快適にお車をご使用いただくために、定期点検を必ず実施してください。

また、これらの他にも使い始めてから1か月目(または、1,000 km 時)に行う点検、Honda が指定する点検整備項目もあります。

道路運送車両法で定められた点検

道路運送車両法で定められた点検には、以下の種類があります。

- 日常点検
- 1年ごと(12か月ごと)に行う点検
- 2年ごと(24か月ごと)に行う点検

小型二輪車[250 cm³(cc)を超えるもの]は、1回目を登録日から3年後に、2回目以降は2年ごとに、国で定める継続検査が必要です。

ご自身で点検を実施する場合

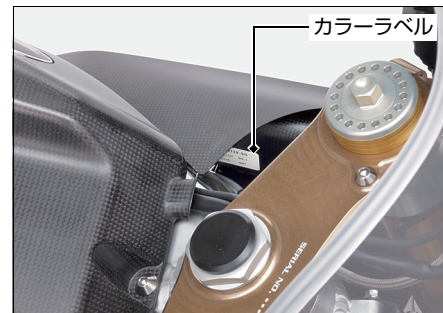
安全のため、ご自分の知識と技量に合わせた範囲内で行ってください。難しいと思われる内容については、RC213V-S テクニカルショップにご相談ください。点検結果は、メンテナンスノートの定期点検整備記録簿に記入し、大切に保存、携行してください。

1 か月目点検について

新車から1か月目(または、1,000 km 時)は、特に初期の点検整備が車の寿命に影響することを重視し、点検を無料でお取り扱いいたします。お買いあげのRC213V-S テクニカルショップで行ってください。他の販売店にてお受けになると有料となる場合があります。また、オイル代、消耗部品代および交換工賃等は実費をいただきます。詳細については、メンテナンスノートをご覧ください。

交換部品について

整備の際は、Honda 純正部品を使用してください。色物部品をご注文のときは、カラーラベルに記載されているモデル名、カラーおよびコードをお知らせください。カラーラベルは、左ダクトの内側にあります。



警告

Honda 純正部品以外のアクセサリ・部品の使用や、不正な改造は思わぬ事故の原因となり、重傷を負ったり、死亡したりすることがあります。

Honda 純正部品を使用してください。

バッテリー

この車は、メンテナンスフリータイプのバッテリーを使用しており、バッテリー液の点検、補給は必要ありません。バッテリーのターミナル部に汚れや腐食がある場合は、RC213V-S テクニカルショップにご相談ください。

また、密閉式の液口キャップは絶対に取り外さないでください。バッテリー充電時も液口キャップを取り外す必要はありません。

アドバイス

バッテリーには寿命があります。交換時期については、RC213V-S テクニカルショップにご相談ください。交換する場合は、必ず同型式のメンテナンスフリーバッテリーを使用してください。

Ⅰ 万一の場合の応急処置

以下のようなときは、応急処置したあと、直ちに医師の診察を受けてください。

- 電解液が眼に付着したとき
 - ▶ コップなどに入れた水で、15 分以上洗浄してください。加圧された水での洗浄は、眼を痛めるおそれがあります。
- 電解液が皮膚に付着したとき
 - ▶ 電解液のついた服を脱ぎ、皮膚を多量の水で洗浄してください。

- 電解液を飲み込んだとき
 - ▶ 水、または牛乳を飲んでください。

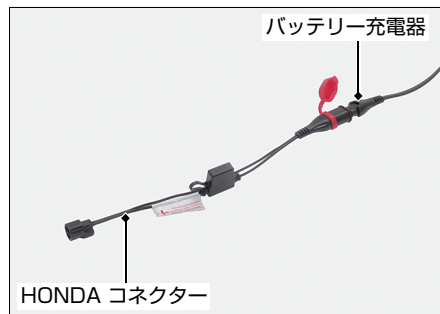
警告

バッテリーには、希硫酸が電解液として含まれています。希硫酸は腐食性が強く、眼や皮膚に付着すると重いヤケドを負います。

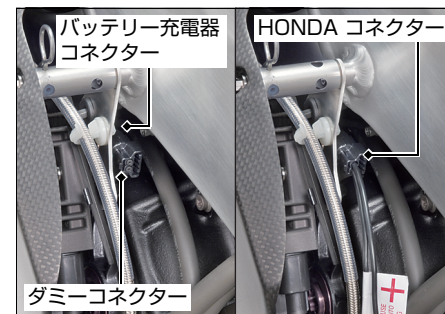
- ・ バッテリーの近くで作業するときは、保護メガネと保護服を着用
- ・ バッテリーを子供の手の届く所に置かない
- ・ ショートによる火花やたばこなどの火気に十分注意する

Ⅱ バッテリーの充電

1. バッテリー充電器を HONDA コネクターに接続する。



2. バッテリー充電器コネクターからダミーコネクターを取り外す。
3. バッテリー充電器コネクターに HONDA コネクターを接続する。
4. バッテリー充電器の取扱説明書に従ってバッテリーを充電する。
 - ▶ 必ずバッテリー充電器に付属の取扱説明書を読んでください。



電装部品やアクセサリーを取り付けるときは純正アクセサリーをご使用ください。それ以外のものを使用するとバッテリーあがりや故障の原因となります。

ヒューズ

この車の電気回路は、ヒューズで保護されています。電装部品が動作しないときは、ヒューズを調べ、必要に応じて交換してください。▶ P. 79

■ ヒューズの点検・交換

電装システムを OFF にして、ヒューズを取り外して点検します。切れている場合は、指定されている容量のヒューズと交換してください。ヒューズの容量はスペックページをご確認ください。▶ P. 91

ヒューズ切れ



アドバイス

指定容量を超えるヒューズを使用すると、配線の過熱焼損の原因になるので絶対に使用しないでください。

交換してもすぐにヒューズが切れる場合は、ヒューズの劣化以外の原因が考えられます。RC213V-S テクニカルショップにご相談ください。

エンジンオイル(トランスミッションオイル)

エンジンオイルは走行距離や走行状況、時間の経過とともに劣化したり減っていきます。そのため、定期交換時期に行う交換だけではなく日常点検によるオイル点検・補給が必要です。汚れたり古くなったオイルはエンジンに悪影響を与えますので早めに交換してください。

オイル交換はRC213V-S テクニカルショップで行うことを推奨します。交換時期はスペックページをご確認ください。▶ P. 91

■ エンジンオイル(トランスミッションオイル)の選びかた

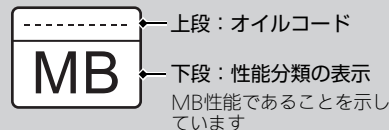
推奨エンジンオイル(トランスミッションオイル)：

Honda 純正 ウルトラ S9

相当品をご使用の場合は、オイル容器の表示を確認し、下記の全ての規格を満たしているオイルをお選びください。全ての規格を満たしている場合でも特性が異なりこの車に適合しない場合があります。

- JASO T 903 規格※1：MB
- SAE 規格※2：10W-40
- API 分類※3：SL 級相当

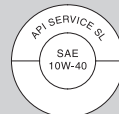
※1： JASO T 903 規格は、二輪車用4サイクルエンジンオイルの性能を分類する規格です。適合し届け出されたオイルの容器には、次の表示があります。



- ※2： SAE 規格は、オイルの粘度を定めた規格です。
- ※3： API 分類は、エンジンオイルのグレードに関する分類です。API マークの入っている相当品を使用する場合、下記のものをご使用ください。



推奨しません



推奨します

ブレーキ液(クラッチ液)

銘柄の異なるブレーキ液を使用しないでください。ブレーキ液が変質したりブレーキ装置の故障の原因となることがあります。

アドバイス

ブレーキ液は、プラスチックや塗装面を損傷します。漏れたブレーキ液は直ちに拭き取ってください。

指定ブレーキ液

Honda 純正ブレーキフルード DOT 4

冷却水

Honda 純正ウルトララジエーター液を、蒸留水または水道水で下記濃度に薄めてお使いください。

標準濃度：50%

濃度による不凍温度：

30% の場合：-16℃まで

50% の場合：-37℃まで

アドバイス

指定以外のラジエーター液や不適当な水(井戸水や天然水)を使うと、サビなどの原因となります。

エアクリーナー

この車には、ろ紙式のエアクリーナーエレメントが装備されており点検が必要です。エアクリーナーエレメントの点検・交換は、RC213V-S テクニカルショップにご相談ください。点検・交換時期はスペックページをご確認ください。📖 P. 91

ドライブチェーン

チェーンは、定期的に点検および給油を行ってください。また悪路走行が多い場合や連続高速走行、急加速を繰り返すような運転を行う場合には、頻繁に点検を行ってください。▶ P. 91

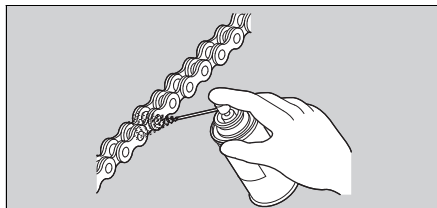
チェーンの異常(回転が滑らかでない、異音、固着、ローラーや O- リングの損傷)は、RC213V-S テクニカルショップにご相談ください。

Ⅰ ドライブチェーンの清掃と給油

緩み(たるみ)の点検後、車体を前後に動かし、チェーンやスプロケットに付着した泥、汚れを中性洗剤またはチェーンクリーナーを使用し、乾いた布などで落とします。汚れがひどい場合、やわらかいブラシを使用してください。汚れを落としたあとは、十分に乾燥させ、推奨オイルをチェーンローラーの両側に給油してください。

推奨オイル：

Honda 純正チェーンオイルまたは相当品



チェーンは、ゴムのシールを使用しているため、スチーム／高圧洗浄、ワイヤーブラシ、ガソリンやベンゼンなどの揮発性溶剤、研磨材が入っている洗剤は使用しないでください。

シール(O- リング)チェーン専用の、クリーナーや潤滑油(チェーンスプレーなど)以外は使用しないでください。

オイルがブレーキやタイヤに付着しないようにしてください。チェーンにオイルをつけ過ぎると、衣服や車に飛び散り汚しますので、オイルをつけ過ぎないように注意してください。

タイヤ

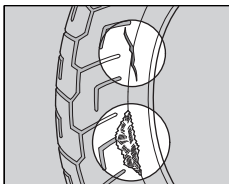
■ 空気圧の点検

タイヤの空気圧は徐々に低下します。また、タイヤによっては空気圧不足が見た目ではわかりづらいため、少なくとも 1 か月ごとにタイヤゲージを使用して空気圧を点検してください。

タイヤは、走行後は温まり空気圧が高くなることがありますので、必ず冷えた状態で点検してください。

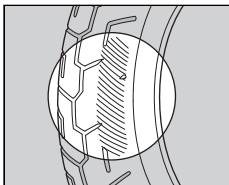
■ 亀裂と損傷の点検

タイヤの全周に、亀裂や損傷、ひび割れおよび釘、石、その他の異物が刺さったり、かみ込んだりしていないかを点検します。道路の縁石などにタイヤ側面を接触させたり、大きな凹みや突起物を乗り越えたときは、必ず点検してください。



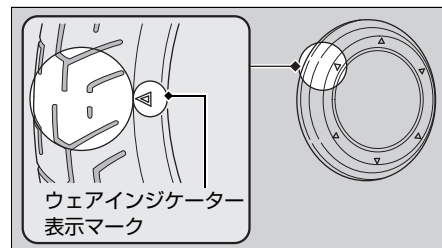
■ 異状な摩耗の点検

タイヤの接地面が異状に摩耗していないかを点検します。



■ 溝の深さの点検

ウェアインジケーター(スリップサイン)により溝の深さを確認します。サインが現れたときは、直ちに交換してください。また、安全走行のため、トレッド中央部の溝の深さが最小残溝量になったときは交換してください。



⚠ 警告

過度にすり減ったタイヤの使用や、不適正な空気圧での運転は、転倒事故などを起こす原因となり、死亡または重大な傷害に至る可能性があります。

取扱説明書に記載されたタイヤの空気圧を守り、規定の数値を超えてすり減ったタイヤは交換してください。

タイヤを交換するときは、必ず指定タイヤを使用してください。指定以外のタイヤは、操縦性や走行安定性に悪影響を与えることがありますので使用しないでください。

タイヤの交換は、RC213V-S テクニカル ショップにご相談ください。指定タイヤ、空気圧、最小残溝量(溝の深さ)はスペックページをご確認ください。▶ P. 91

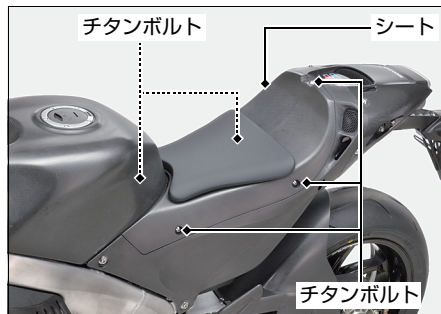
- ホイールバランス調整のためにバランスウェイトを貼り付けるときは、Honda 純正部品、又は同等品のバランスウェイトを使用してください。

⚠ 警告

指定以外のタイヤを取り付けると、操縦性や走行安定性に悪影響を与えることがあります。また、そのことが原因で転倒事故などを起こし、死亡または重大な傷害に至る可能性があります。

タイヤ交換時には、必ず取扱説明書に記載された指定タイヤを取り付けてください。

シート



カーボン部品の損傷を防ぐため、シートに無理な力をかけないでください。

Ⅰ取り外し

1. フレームの左側にある携帯工具を使い、チタンボルトを取り外す。
2. シートを取り外す。

Ⅱ取り付け

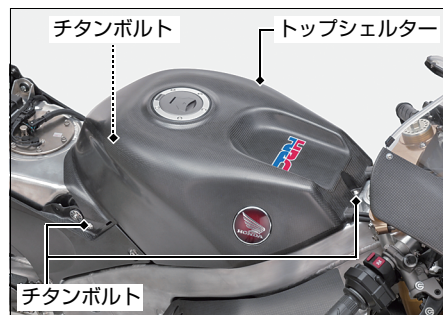
1. シートを取り付ける。
2. チタンボルトのねじ部にモリブデングリスを塗布する。
3. ボルトを取り付け、指定トルクで締め付ける。

指定トルク：10 N・m(1.0 kgf・m)

▶ ボルトが確実に締め付けてあるか確認してください。

トルクレンチがない場合は、RC213V-S テクニカルショップにご相談ください。

トップシールド



カーボン部品の損傷を防ぐため、トップシールドに無理な力をかけないでください。

Ⅰ 取り外し

1. シートを取り外す。▶ P. 56
2. フレームの左側にある携帯工具を使い、チタンボルトを取り外す。
3. トップシールドを取り外す。

Ⅱ 取り付け

1. トップシールドを取り付ける。
2. チタンボルトのねじ部にモリブデングリスを塗布する。
3. ボルトを取り付け、指定トルクで締め付ける。

指定トルク：10 N・m(1.0 kgf・m)

トルクレンチがない場合は、RC213V-S テクニカルショップにご相談ください。

右ミドルフェアリング

カーボン部品の損傷を防ぐため、右ミドルフェアリングに無理な力を加えないでください。

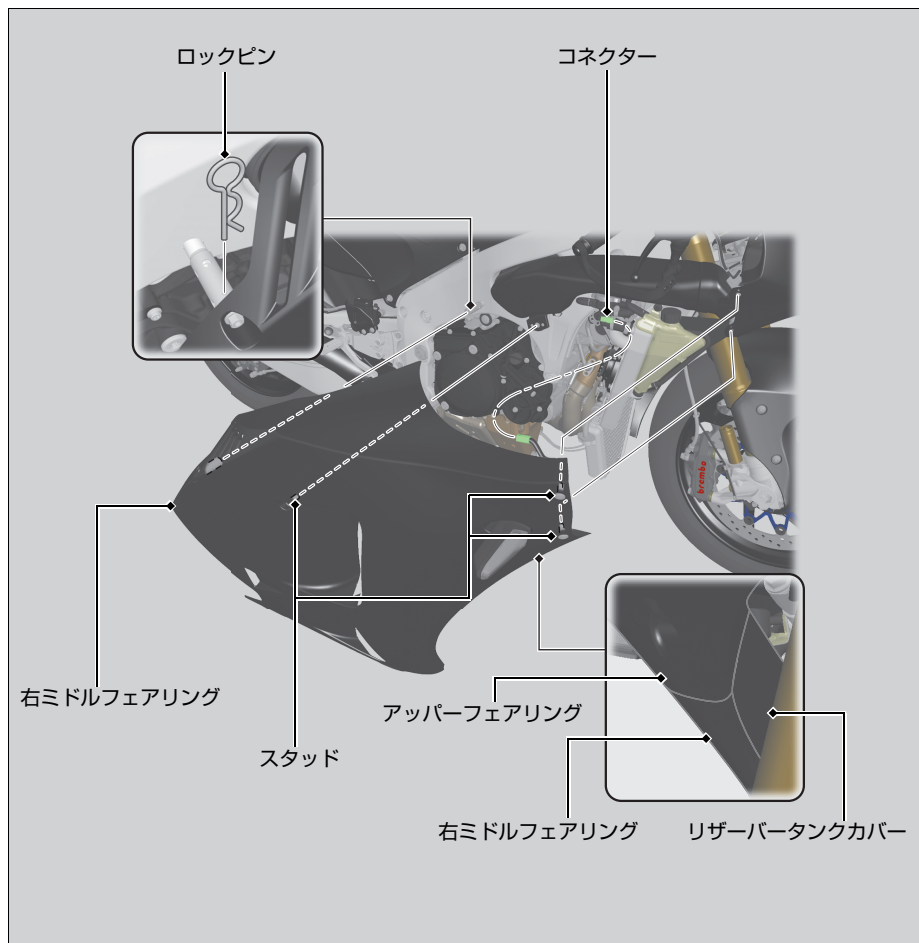
Ⅰ 取り外し

1. ロアフェアリングを取り外す。▶ P. 59
2. ロックピンを取り外す。
3. スタッドを外す。
4. 右ミドルフェアリングを取り外す。
5. 右ミドルフェアリングを保持しながら、コネクターの接続を外す。

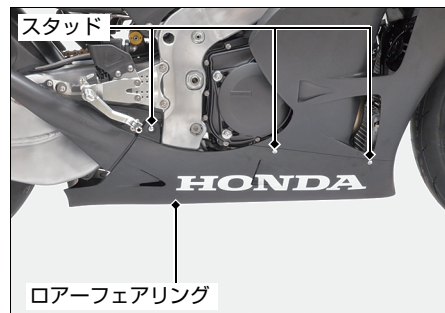
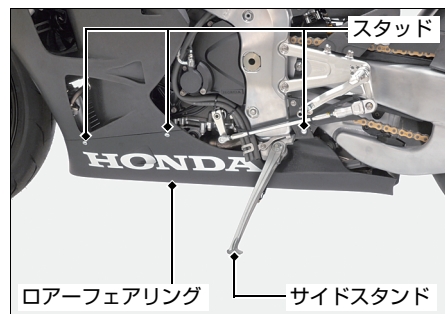
Ⅱ 取り付け

取り付けは、取り外しの逆の手順で行います。

- ▶ 右ミドルフェアリングを取り付けるときは、はじめに右ミドルフェアリングの先端とアッパーフェアリング、リザーバータンクカバーを合わせてください。



ロアーフェアリング



カーボン部品の損傷を防ぐため、ロアーフェアリングに無理な力を加えないでください。

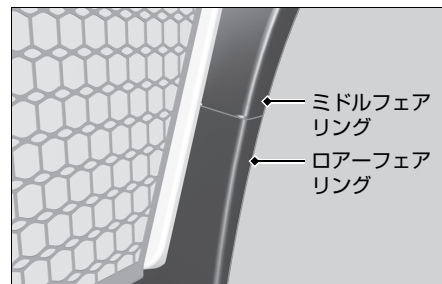
取り外し

1. サイドスタンドを下げる。
2. スタッドを外す。
3. ロアーフェアリングを取り外す。

取り付け

取り付けは、取り外しの逆の手順で行います。

- ▶ ロアーフェアリングを取り付けるときは、ミドルフェアリングの外側にロアーフェアリングの先端を合わせてください。

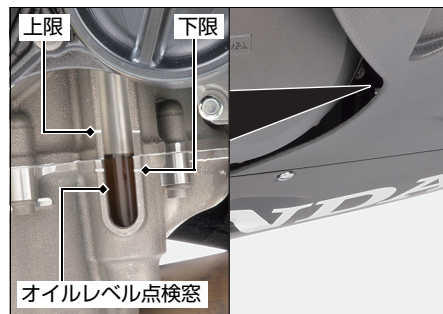


エンジンオイルの点検

1. エンジンが冷えている場合は、3～5分ほどアイドリングさせる。
2. 電装システムを OFF にしてエンジンを止め、2～3分間待つ。
3. 足場のしっかりとした平坦地にサイドスタンドを立て、車を倒さないようにまっすぐに起こす。

オイルレベルを点検するときは、車をメンテナンススタンドから降ろしてください。メンテナンススタンドをかけた状態では、正確なオイルレベルを確認できません。

4. オイルレベルが点検窓の上限と下限の間にあることを確認する。



エンジンオイルの補給

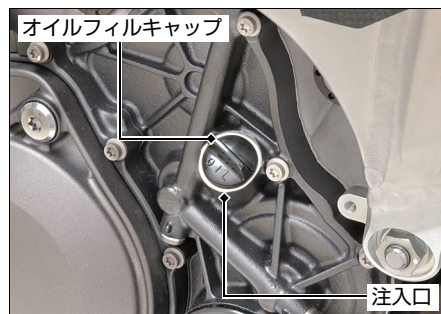
エンジンオイルが不足している、またはオイルレベルが下限に近いときは、推奨エンジンオイルを上限まで補給してください。

➡ P. 52、➡ P. 91

1. ロアフェアリングを取り外す。➡ P. 59
2. 右ミドルフェアリングを取り外す。➡ P. 58
3. オイルフィルキャップを取り外し、オイルレベル点検窓で確認しながら、オイルを注入口より補給する。

▶ オイルレベルを確認するときは、足場のしっかりとした平坦地にサイドスタンドを立て、車を倒さないようにまっすぐに起こしてください。

- ▶ 上限を超えて補給しないでください。
- ▶ ごみが入らないようにしてください。
- ▶ オイルをこぼしたときは完全に拭き取ってください。



4. オイルフィルキャップを確実に取り付ける。
5. 右ミドルフェアリングを取り付ける
6. ロアフェアリングを取り付ける。

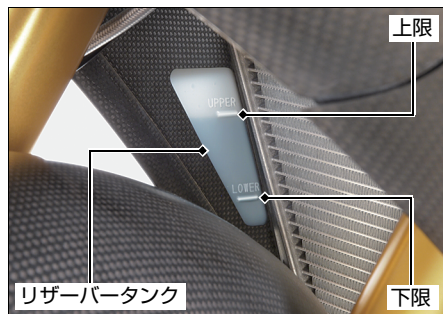
アドバイス

オイルは規定量より多くても少なくても、エンジンに悪影響を与えます。また銘柄やグレードの異なるオイルを混用しないでください。

推奨エンジンオイルやオイルの選びかたについてはメンテナンスの基礎知識をご確認ください。➡ P. 52

冷却水の点検

1. 足場のしっかりとした平坦地にサイドスタンドを立てる。
2. 車を倒さないようにまっすぐに起こす。
3. 冷却水がリザーバータンクの上限 (UPPER) と下限 (LOWER) の間にあることを確認する。

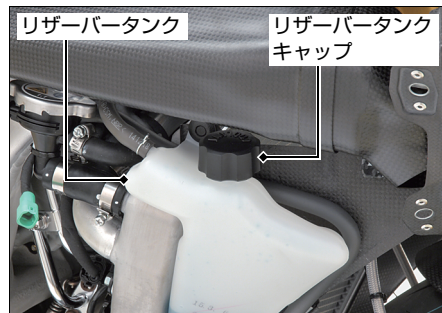


冷却水の減り具合が著しいとき、またはリザーバータンクに冷却水がない場合は水漏れが考えられます。RC213V-S テクニカルショップにご相談ください。

冷却水の補給

冷却水の補給はリザーバータンクキャップから行い、ラジエーターキャップは外さないでください。

1. ロアーフェアリングを取り外す。▶ P. 59
2. 右ミドルフェアリングを取り外す。▶ P. 58
3. リザーバータンクキャップを取り外し、冷却水 (▶ P. 53) のレベルを確認しながら補給する。
 - ▶ 冷却水のレベルを確認するときは、足場のしっかりとした平坦地にサイドスタンドを立て、車を倒さないようにまっすぐに起こしてください。
 - ▶ 上限を超えて補給しないでください。
 - ▶ ごみが入らないようにしてください。



4. リザーバータンクキャップを確実に取り付ける。
5. 右ミドルフェアリングを取り付ける。
6. ロアーフェアリングを取り付ける。

警告

エンジンが熱いときにラジエーターキャップを外すと冷却水が噴き出し、重いヤケドを負います。

ラジエーターキャップを外す前には、必ずエンジン、ラジエーターが冷えていることを確認してください。

ブレーキ液の点検

1. 足場のしっかりとした平坦地にサイドスタンドを立てる。
2. **フロント** リザーバートank上面を水平にし、液面が上限(MAX)と下限(MIN)の間にあることを確認する。
リア リザーバートank上面を水平にし、液面が点検窓の下限(LWR)以上にあることを確認する。
▶ 液面が下限以下の場合、ブレーキパッドの摩耗の点検を行ってください。

パッドが摩耗していない場合、あるいは液漏れやホースに損傷があるときはRC213V-S テクニカルショップにご相談ください。

フロント



リア



ブレーキパッドの摩耗の点検

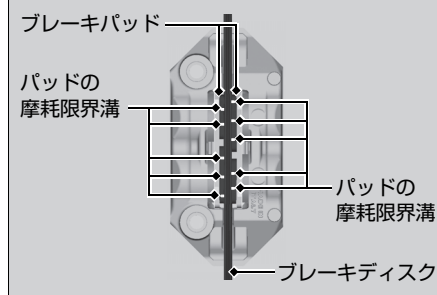
ブレーキパッドの摩耗限界溝が無くなった
ら、パッドの摩耗限界です。

摩耗限界に達したら左右同時にブレーキパ
ッドを交換してください。

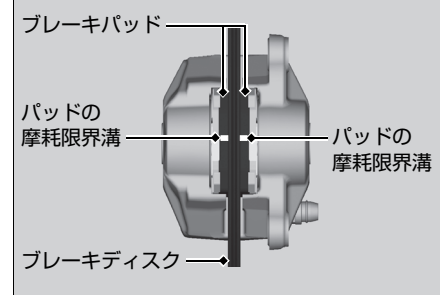
ブレーキパッドの交換は、RC213V-S テクニ
カルショップにご相談ください。

1. **フロント** ブレーキキャリパーの後側から
のぞいて点検します。
▶ 点検は片側だけでなく、左右のキャリ
パーで行ってください。
2. **リア** 車の右後ろ側からブレーキキャリパー
をのぞいて点検します。

フロント



リア



緩み(たるみ)の点検

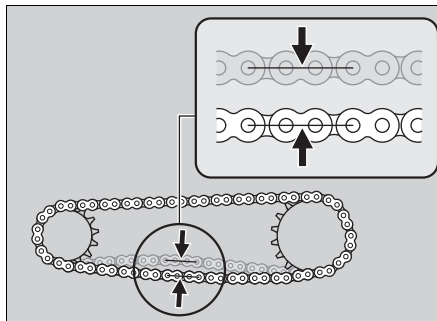
チェーンの緩み(たるみ)が適正かどうか、滑らかに回転するか点検します。緩み(たるみ)が規定の範囲を超えている場合、回転が滑らかでないときはRC213V-S テクニカルショップにご相談ください。

1. トランスミッションをニュートラルに入れて、エンジンを停止する。
2. 足場のしっかりとした平坦地にサイドスタンドを立てる。

3. 前後のスプロケットの中央を手で上下に動かし、チェーンの緩みが規定の範囲にあることを確認する。

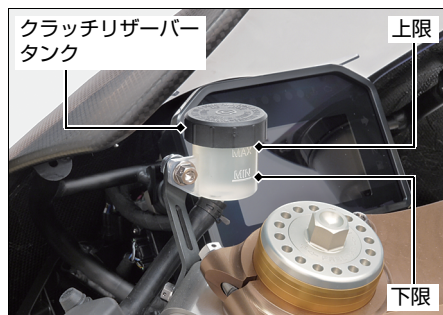
ドライブチェーンの緩み(たるみ)：
30 ～ 40 mm

- ▶ 緩みが 50 mm 以上の場合、絶対に走行しないでください。



4. 車体を垂直にし、車体を前後に動かしてチェーンが滑らかに回転することを確認する。
▶ チェーンの回転が滑らかでない場合や、異音が出る場合は清掃と給油を行ってください。🔧 P. 54

クラッチ液の点検



1. 足場のしっかりとした平坦地にサイドスタンドを立てる。
2. リザーバータンク上面を水平にし、液面が上限(MAX)と下限(MIN)の間にあることを確認する。

液面が低い場合、あるいは液漏れやホースに損傷があるときは RC213V-S テクニカルショップにご相談ください。

スロットルの点検

電装システムを OFF にした状態でスロットルを作動させ、スムーズに動くかどうか点検します。異状を感じた場合は RC213V-S テクニカルショップにご相談ください。

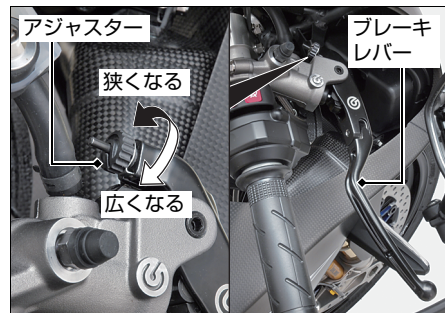


ブレーキレバーの距離調整

ブレーキレバーに、レバーとハンドルグリップの間隔を調整できるアジャスターが装備されています。

調整方法

アジャスターを右(時計回り)に回すと広くなり、左(反時計回り)に回すと狭くなります。



調整後は、走行する前にブレーキが正常に作動することを確認してください。

アドバイス

調整範囲を超えてアジャスターを回さないでください。

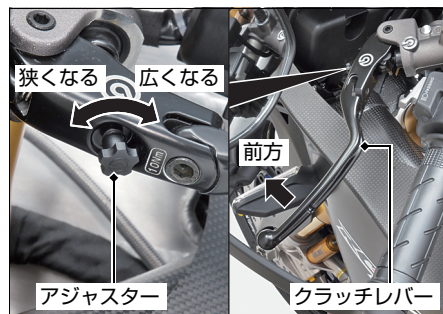
クラッチレバーの距離調整

クラッチレバーに、レバーとハンドルグリップの間隔を調整できるアジャスターが装備されています。

調整方法

レバーを前方に押しながら、アジャスターを回して調整します。

アジャスターを右(時計回り)に回すと広くなり、左(反時計回り)に回すと狭くなります。



調整後は、走行する前にクラッチが正常に作動することを確認してください。

アドバイス

調整範囲を超えてアジャスターを回さないでください。

フロントサスペンションの調整

■スプリングの強さ

体重や路面の状態などに応じ、スプリングの強さを調整できます。

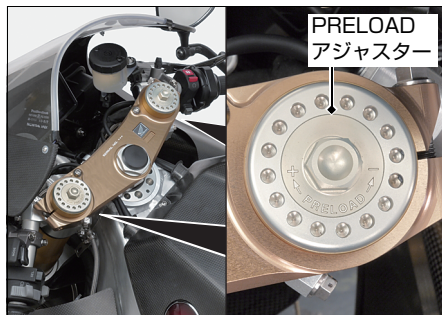
スプリングの強さは、PRELOAD アジャスターを回して調整します。

PRELOAD アジャスターを右(時計回り)に回すと強くなり、左(反時計回り)に回すと弱くなります。

PRELOAD アジャスターを左回りに軽く止まるまで回したあと、右回りに戻し、最初のクリックする位置が0段(最弱位置)です。

標準は、PRELOAD アジャスターを0段から右回りに3回転(6クリック)戻した位置です。

▶ 調整の際は、アジャスターを傷つけないよう、注意してください。



■伸び側減衰力

体重や路面の状態などに応じ、伸び側減衰力を調整できます。

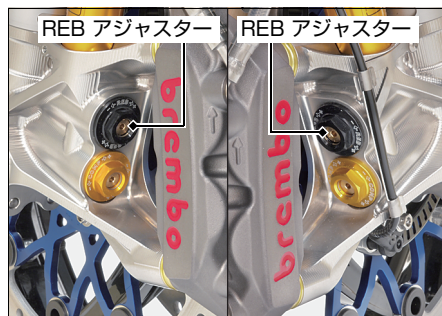
減衰力の強さは、REB アジャスターを回して調整します。

REB アジャスターを右(時計回り)に回すと強くなり、左(反時計回り)に回すと弱くなります。

REB アジャスターを右回りに軽く止まるまで回したあと、左回りに戻し、最初のクリックする位置が0段(最強位置)です。

標準は、REB アジャスターを0段から左回りに18クリック戻した位置(18段目)です。

▶ 調整の際は、アジャスターを傷つけないよう、注意してください。



■縮み側減衰力

体重や路面の状態などに応じ、縮み側減衰力を調整できます。

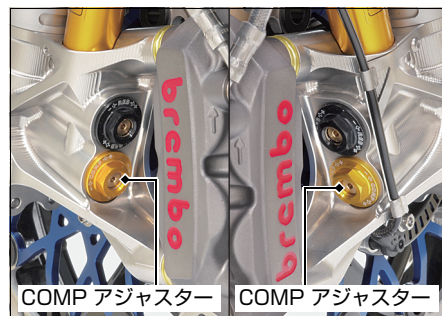
減衰力の強さは、COMP アジャスターを回して調整します。

COMP アジャスターを右(時計回り)に回すと強くなり、左(反時計回り)に回すと弱くなります。

COMP アジャスターを右回りに軽く止まるまで回したあと、左回りに戻し、最初のクリックする位置が0段(最強位置)です。

標準は、COMP アジャスターを0段から左回りに17クリック戻した位置(17段目)です。

▶ 調整の際は、アジャスターを傷つけないよう、注意してください。



アドバイス

アジャスターは、無理に回さないでください。
左右の強さは必ず同じにしてください。

リアサスペンションの調整

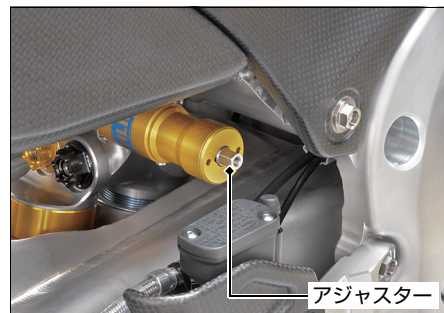
■ スプリングの強さ

体重や路面の状態などに応じ、スプリングの強さを調整できます。

スプリングの強さは、アジャスターを回して調整します。

アジャスターを右(時計回り)に回すと強くなり、左(反時計回り)に回すと弱くなります。

標準は、アジャスターを左回りに軽く止まるまで回したあと、右回りに 6 回転戻した位置です。



アジャスター

■ 伸び側減衰力

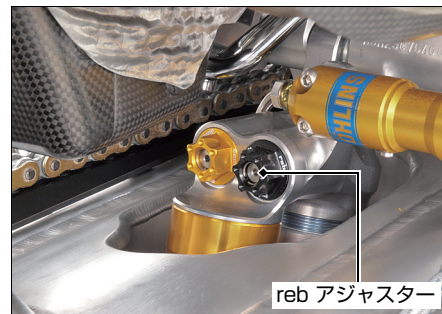
体重や路面の状態などに応じ、伸び側減衰力を調整できます。

減衰力の強さは、reb アジャスターを回して調整します。

reb アジャスターを右(時計回り)に回すと強くなり、左(反時計回り)に回すと弱くなります。

reb アジャスターを右回りに軽く止まるまで回したあと、左回りに戻し、最初のクリックする位置が 0 段(最強位置)です。

標準は、reb アジャスターを 0 段から左回りに 12 クリック戻した位置(12 段目)です。



reb アジャスター

■ 縮み側減衰力

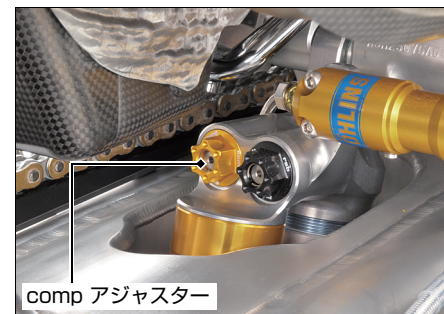
体重や路面の状態などに応じ、縮み側減衰力を調整できます。

減衰力の強さは、comp アジャスターを回して調整します。

comp アジャスターを右(時計回り)に回すと強くなり、左(反時計回り)に回すと弱くなります。

comp アジャスターを右回りに軽く止まるまで回したあと、左回りに戻し、最初のクリックする位置が 0 段(最強位置)です。

標準は、comp アジャスターを 0 段から左回りに 12 クリック戻した位置(12 段目)です。



comp アジャスター

アドバイス

アジャスターは、無理に回さないでください。

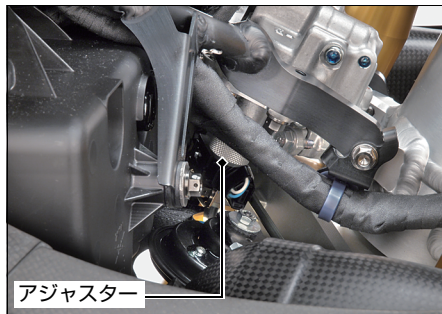
ステアリングダンパーの調整

ステアリングダンパーの減衰力は、アジャスターで調整できます。

公道を走行する場合は、ステアリングダンパーを標準の設定にしてください。

アジャスターを右(時計回り)に回すと強くなり、左(反時計回り)に回すと弱くなります。アジャスターを右回りに軽く止まるまで回したあと、左回りに戻し、最初のクリックする位置が1段(最強位置)です。

標準は、アジャスターを1段から左回りに24クリック戻した位置(25段目)です。



ステップの調整

ライダーの好みに応じて、ステップの位置を変更することができます。ステップの位置を変更する場合はRC213V-S テクニカルショップにご相談ください。

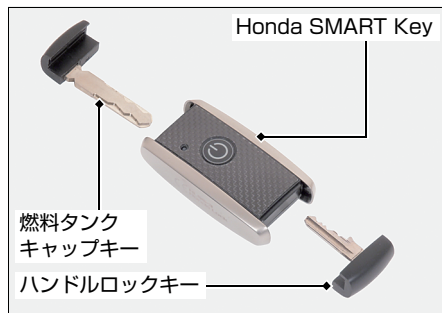
Honda SMART Key の電池交換

電装システムを起動したときに Honda SMART Key 表示灯が 5 回点滅した場合や電池消耗のポップアップ情報が表示した場合、作動距離が不安定になった場合は、電池の消耗が考えられますので、早めに電池を交換してください。

電池の交換は RC213V-S テクニカルショップで行うことを推奨します。

使用電池：CR2032

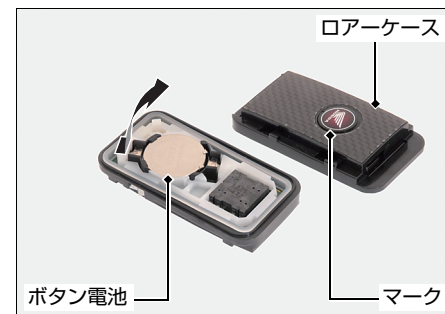
1. 燃料タンクキャップキーとハンドルロックキーを Honda SMART Key から取り外す。



2. サイドケースをずらし、ケースを取り外す。



3. Honda SMART Key のマーク側を上に向けて、ロアーケースを取り外す。
4. 古いボタン電池を取り外し、新品のボタン電池を⓪側を上に向けて取り付ける。
 - ▶ 本体の内部回路、電子端子などに触れないでください。故障の原因となります。
 - ▶ Honda SMART Key 本体に無理な力を加えたり、分解しないでください。



5. 外した部品を逆の手順で取り付ける。
 - ▶ 全てのケースが正しく取り付けられていることを確認してください。

⚠ 注意

ボタン電池および取り外した部品は小さいため、子供が誤って飲み込み、傷害を受ける可能性があります。

ボタン電池および取り外した部品を子供の手の届く所に置かないでください。

こんなときは

エンジンが停止しない	P. 73
エンジンが始動しない	P. 74
オーバーヒート(水温警告灯が点灯)	P. 75
警告灯／表示灯が点灯／点滅	P. 76
油圧警告灯	P. 76
PGM-FI 警告灯	P. 76
トルクコントロール警告灯	P. 76
Honda SMART Key 表示灯	P. 77
Honda SMART Key System が正しく 作動しない	P. 78

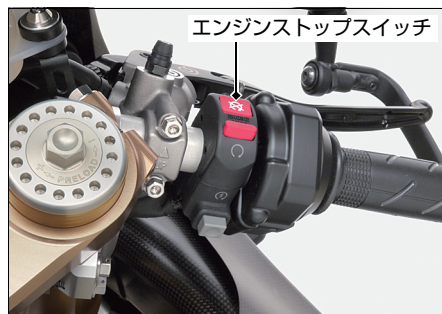
電装部品のトラブル	P. 79
ヒューズ切れ	P. 79

エンジンが停止しない

エンジンストップスイッチを~~⊗~~(Off)にしてもエンジンが停止しない場合は、次の処置を行ってください。

エンジンストップスイッチの (Run)と~~⊗~~(Off)の切り換えを、3 秒以内に 3 回繰り返す。

エンジンをかけず、RC213V-S テクニカルショップにご相談ください。



Ⅰ スターターモーターは作動するがエンジンが始動しないとき

次の点を確認してください。

- 正しい手順でエンジンをかけているか
▶ P. 43
- 燃料タンクにガソリンはあるか
- PGM-FI 警告灯が点灯していないか
▶ 点灯している場合は、直ちにRC213V-S
テクニカルショップにご相談ください。

Ⅱ スターターモーターが作動せず始動できないとき

次の点を確認してください。

- エンジンストップスイッチが~~ON~~(Off)になっていないか
- ヒューズが切れていないか ▶ P. 79
- バッテリーターミナル部に緩みや腐食がないか ▶ P. 51

これらに該当しない場合や異常がある場合は、RC213V-S テクニカルショップにご相談ください。

オーバーヒート(水温警告灯が点灯)

次のようなときは、オーバーヒートです。

- 水温警告灯が点灯している
- 走行時の加速が急に悪くなる

このようなときは直ちに安全な場所に車を停めて次の処置・確認を行ってください。

アドバイス

オーバーヒートの状態で走行を続けると、エンジン故障の原因となります。

長時間のアイドリングにより、水温警告灯が点灯する場合があります。

オーバーヒートの処置

1. エンジンストップスイッチを~~ON~~(Off)にしてエンジンを止め、再度スタートボタンを1回押し電装システムを起動する。

2. ラジエーターの冷却ファンが作動するか作動音で確認し、エンジンストップスイッチを使って電装システムをOFFにする。

冷却ファンが作動しない場合

故障が考えられますので、エンジンをかけず RC213V-S テクニカルショップにご相談ください。

冷却ファンが作動している場合

電装システムをOFFにしている状態で、エンジンが冷えるのを待ちます。

3. エンジンが冷えてから、リザーバタンクの冷却水を点検し、冷却水が不足していたら補給する。▶ P. 53, 61
4. ラジエーターホースなどを点検し、水漏れがないか確認する。

水漏れがある場合

エンジンをかけず、RC213V-S テクニカルショップにご相談ください。

5. 水温計で冷却水の温度を確認しながら走行する。
 - ▶ 異常が無ければ走行可能ですが、異常が再発しない場合でも、なるべく早く RC213V-S テクニカルショップで点検を受けてください。

油圧警告灯

エンジンオイルの油圧が低下すると点灯します。油圧警告灯が点灯したら、速やかにエンジンを停止し、次の点を確認してください。

アドバイス

油圧が低下した状態で走行を続けると、エンジンが故障するおそれがあります。

1. オイルレベルを点検し、必要に応じて補給する。▶ P. 60
2. エンジンを始動する。
 - ▶ 油圧警告灯が消えたら、走行できます。
 - ▶ 消灯しない場合は、エンジンを止めて RC213V-S テクニカルショップにご相談ください。
 - ▶ 急な加速をすると油圧警告灯が瞬間的に点灯する場合があります。(特にオイルレベルが下限、下限付近の場合)
 - ▶ オイルが減っていた場合、オイル漏れや故障のおそれがありますので、RC213V-S テクニカルショップで点検を受けてください。

PGM-FI 警告灯

走行中またはアイドリング中に点灯した場合は何らかの異常が考えられます。高速走行を避け、直ちに RC213V-S テクニカルショップにご相談ください。

トルクコントロール警告灯

警告灯が以下のような状態になった場合、トルクコントロールの異常が考えられますので、RC213V-S テクニカルショップにご相談ください。

- 走行中に点灯し続けたとき
- 電装システムを起動しても点灯しないとき
- 5 km/h 以上で走行しても消灯しないとき

警告灯が点灯した場合でも走行は可能です。(トルクコントロールは作動しません)

- ▶ トルクコントロール作動中に警告灯が点灯したときは、一度スロットルグリップを完全に閉じることで、通常の状態に戻ります。

トルクコントロール警告灯が消灯した状態で、メンテナンススタンドを立てるなどして後輪を空転させた場合、警告灯が点灯する場合があります。

この場合は電装システムを OFF にし、再度、電装システムを起動します。警告灯が点灯し、速度が約 5 km/h に達して消灯すれば正常です。

Honda SMART Key 表示灯

■ 電装システムを起動したときに、 Honda SMART Key 表示灯が5 回点滅した場合

Honda SMART Key の電池交換 ■ P. 71

■ 電装システムの起動中に、 Honda SMART Key 表示灯が点 滅した場合

走行中の Honda SMART Key の紛失や電池の消耗、強い電波やノイズのある場所等、通信不良時に点滅することがあります。

ただし、エンジンストップスイッチを~~ⓧ~~ (Off)にするまでは走行に影響はありません。

Honda SMART Key System が正しく作動しない

Honda SMART Key System が作動しないときは以下を確認してください。

- Honda SMART Key System が ON になっているか
 - ▶ Honda SMART Key の ON / OFF スイッチを押して作動状態を確認する。
Honda SMART Key の LED が赤 (OFF) の場合は、Honda SMART Key System を ON に切り換える。■ P. 37
- 強い電波やノイズのある場所などで使用していないか
Honda SMART Key System は、微弱な電波を使用しています。よって下記のような使用環境では Honda SMART Key System が正常に作動しないことがあります。
 - 近くにテレビ塔や発電所、放送局、空港など強い電波を発生する設備があるとき
 - 無線機や携帯電話などの無線通信機器やノートパソコンなどを、Honda SMART Key と一緒に携帯しているとき
 - Honda SMART Key が金属製のものに接したり、覆われているとき

- 登録された専用の Honda SMART Key を使用しているか
 - ▶ 登録された専用の Honda SMART Key を使用してください。
登録された専用の Honda SMART Key を使用しないと、Honda SMART Key System は作動しません。
- 壊れた Honda SMART Key を使用していないか
 - ▶ 別の登録された Honda SMART Key を使用してください。
壊れた Honda SMART Key を使用した場合、Honda SMART Key System は作動しません。
- 車両のバッテリーが弱っていないか、もしくはあがっていないか
 - ▶ 通信不良の原因になることがあります。
RC213V-S テクニカルショップにご相談ください。

これらに該当しない場合や異常がある場合は、RC213V-S テクニカルショップにご相談ください。

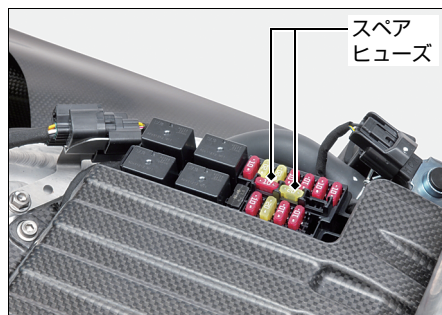
ヒューズの取り扱いについてはメンテナンスの基礎知識をご確認ください。▶P. 49

ヒューズ切れ

■ヒューズボックス内のヒューズ

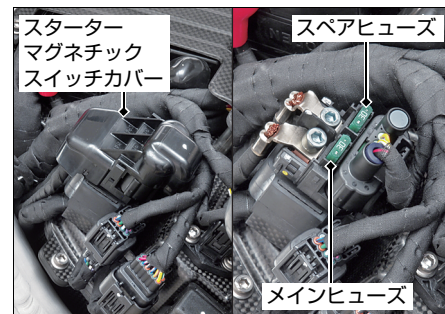


1. シートを取り外す。▶P. 56
2. トップシールドを取り外す。▶P. 57
3. ヒューズボックスカバーを取り外す。



4. ヒューズが切れている場合は同じ容量のスペアヒューズと交換する。
5. 外した部品を逆の手順で取り付ける。

■メインヒューズ



1. シートを取り外す。▶P. 56
2. トップシールドを取り外す。▶P. 57
3. スターターマグネチックスイッチカバーを取り外す。
4. ヒューズが切れている場合は同じ容量のスペアヒューズと交換する。
5. 外した部品を逆の手順で取り付ける。

アドバイス

ヒューズが切れた際は、早めに RC213V-S テクニカルショップで点検し、スペアのヒューズを補充してください。

インフォメーション

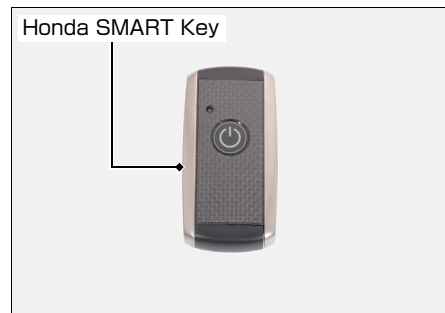
キーの取り扱い	P. 81
装備に関する補足情報	P. 82
車のお手入れ	P. 83
保管のしかた	P. 86
運搬のしかた	P. 87
廃棄するとき	P. 88
フレームおよびエンジンナンバー	P. 89
触媒装置について	P. 90

キーの取り扱い

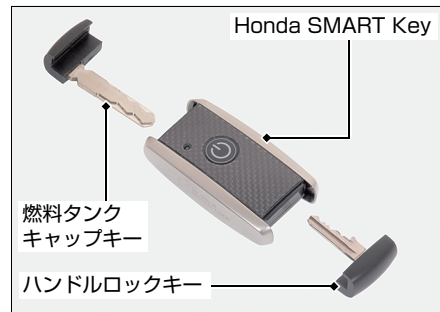
Honda SMART Key

Honda SMART Key を携帯していることで、車両の操作が可能になります。
Honda SMART Key は運転者が必ず携帯してください。

この車には 2 つの Honda SMART Key が付属します。



Honda SMART Key には燃料タンクキャップキーとハンドルロックキーが付属します。



Honda SMART Key には信号を発信するための精密な電子部品が内蔵されています。
電子部品の故障を防ぐため、取り扱いには次のことをお守りください。

- 落としたり、強い衝撃を与えない
- Honda SMART Key の上に物を置かない
- 長時間、直射日光にさらしたり高温下で放置しない
- 削ったり、穴を開けない
- 磁気を帯びたキーホルダーなどを付けない
- テレビ、オーディオ、パソコンなどの電化製品、または低周波治療器などの医療用電子機器の近くに置かない
- 水に濡らさない
- 洗車時は車両の近くに置かない
- 火であぶったりしない
- 超音波洗浄器などで洗浄しない

- ガソリンなどの燃料やツヤ出し剤、油脂類が付着したときはすぐに拭き取る
▶ 本体が変形したり、ひび割れの原因となるおそれがあります。
- 電池交換のとき以外は分解しない
- Honda SMART Key のカバー以外の箇所は、分解しない
- Honda SMART Key を紛失しない
▶ Honda SMART Key を紛失した場合は、専用の Honda SMART Key および Honda SMART Key System の再登録が必要になります。

Honda SMART Key は常に電波を受信しているため、常に電池を消耗しています。
電池の寿命は、使用状況によりますが約 2 年です。

無線機や携帯電話などの無線通信機器をシートの上に置かないでください。無線通信機器からの電波により Honda SMART Key System が正常に作動しないことがあります。

予備の Honda SMART Key の作成については、専用の Honda SMART Key および Honda SMART Key System の再登録が必要になりますので、お買い上げの RC213V-S テクニカルショップへご相談ください。

装備に関する補足情報

■ エンジンストップスイッチ

非常時は、エンジンストップスイッチを~~ON~~ (Off)にしてエンジンを止めてください。

■ オドメーター

オドメーターは、999,999 km を超えると 999,999 km でロックします。

■ トリップメーター

トリップメーターA / B は、9,999.9 km を超えると 0.0 km に戻ります。

■ アシストスリッパークラッチシステム

アシストスリッパークラッチは、走行時のシフトダウンによる急激なエンジンブレーキを緩和することで、リアタイヤのロックを防ぎ、クラッチ操作を容易にするシステムです。

■ 書類入れ

登録書類、保険証などはシートの裏側にある書類入れに収納してください。

■ 取扱説明書、メンテナンスノート

運転するときは、取扱説明書とメンテナンスノートを携帯してください。

■ イグニッションカットオフシステム

この車は、転倒したとき、自動的にエンジンを停止するシステムが装備されています。エンジンを再始動するときは、システムの作動を解除するために電装システムを一度 OFF にしてください。

■ ヘッドライト、ストップ／テールランプ、フロントウィンカー、リアウィンカー、ライセンスプレートランプ

LED 使用のライトは一体式です。

もし、1 個でも点灯しなくなった場合は、RC213V-S テクニカルショップにご相談ください。

■ ヘルメットホルダー

この車には、ヘルメットホルダーは装備されていません。駐車するときはヘルメットを携帯してください。

車のお手入れ

お車を長持ちさせるため、清掃などのお手入れは大切です。普段見逃しがちな異状の発見にもつながります。また、海水や路面凍結防止剤などに含まれる塩分は、車体のサビを促進します。海岸付近や凍結防止剤を散布した路面を走行したあとは、必ず洗車してください。

洗車

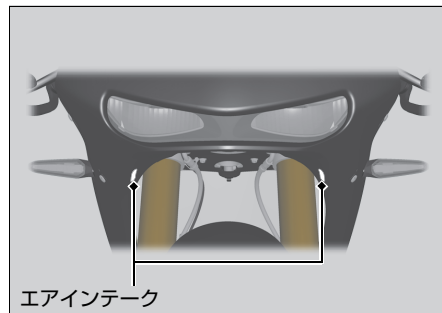
エンジン、マフラー、ブレーキなど高温になる部分は冷えるまで洗車しないでください。

1. 全体を水洗いして、汚れを取り除く。
2. 汚れがひどいときは、薄めた中性洗剤を使用し、スポンジかやわらかいタオルを使って洗う。
 - ▶ 傷を防ぐため、多量の水を使って、汚れを落としてください。
3. 十分な水で洗剤を洗い流しやわらかい布で拭きあげる。
4. 車体を乾燥させたあと、ドライブチェーンと可動部分に注油する。
5. 車体の腐食を防ぐためワックスがけを行う。

■ 洗車にあたっての注意

洗車するときは、次のことをお守りください。

- 高圧洗車機の使用はさける
 - ▶ 車体に高い水圧がかかる洗車を行うと、可動部や電装部品などの作動不良や故障の原因となることがあります。
 - ▶ ヘッドライトレンズや、フェアリングその他のプラスチック部品を洗うときは、傷を防ぐため、多量の水を使って、汚れを落としてください。
- マフラーに水を入れない
 - ▶ 始動不良やサビの発生などの原因になります。
- シートの下方から水を強くかけない
 - ▶ 内部に水が入り、書類などが濡れることがあります。
- エアインテークやエアクリナー周辺に水を強くかけない
 - ▶ エアクリナー内部に水が入ると、始動不良などの原因になります。



- ブレーキを濡れたままにしない
 - ▶ 水によってブレーキの効き具合が悪くなることがあります。洗車後は十分に乾かし、慎重なブレーキ操作を心がけてください。
- ワックス、ケミカル類や油脂類を扱うとき
 - ▶ ブレーキやタイヤにオイル等の油脂類、ワックスやケミカル類が付着しないよう注意してください。ブレーキが効かなくなり、事故の原因になる場合があります。
 - ▶ ワックスやケミカル類を使用するときは、ボディーの目立たないところでもりや傷、色むらなどが生じないか確認してください。種類によっては塗膜が薄くなったり色むらが生じるものがあります。
- 未塗装 CFRP 仕様(カーボン)
 - 未塗装のカーボン部品にはワックスやコンパウンド、ケミカル類を使用しない
 - ▶ 清掃するときは多量の水を使って、やわらかい布やスポンジで汚れを落としてください。
 - ▶ 汚れがひどいときは、薄めた中性洗剤を使用し、十分な水で洗剤を洗い流してください。

アルミ、マグネシウム部品

アルミおよびマグネシウム部品は土や泥、あるいは塩分によって腐食します。傷をつけないよう、取り扱いについては次のことに注意してください。

- 硬いブラシやスチールウールを使用しない
- マグネシウムホイールの表面に傷がついた場合は、汚れを取り除いてから補修用塗料を塗って補修する
- マグネシウムホイールはすり当てをさけ、縁石などに乗り上げる際は変形に注意する

フレームおよびスイングアームは表面処理がほどこされていません。腐食を防ぐため洗車後は完全に拭き取ってください。

腐食したマグネシウムホイールを使用しないでください。マグネシウムホイールの腐食が著しい場合は、新品に交換してください。

ホイールやエンジンカバーなどのマグネシウム部品は、腐食を防ぐため洗車後は完全に拭き取ってください。

樹脂部品

傷やひび割れ等を防ぐため、取り扱いについては次のことに注意してください。

- 清掃するときは多量の水を使って、やわらかい布やスポンジで汚れを落とす
- 汚れがひどいときは、薄めた中性洗剤を使用し、十分な水で洗剤を洗い流す
- メーター、スクリーン、フェアリング、ヘッドライトレンズなどの樹脂部品にガソリン、ブレーキ液、クリーナーなどがかからないようにする
- スクリーンに貼付されているコーションラベルをはがさない
- 破損したカーボンパネルは交換する
- カーボンパネルの破損箇所に触れない

未塗装 CFRP 仕様(カーボン)

未塗装のカーボン部品は、材料の特性上紫外線により表面が劣化(変色)します。使用前に必ず塗装をほどこしてください。

メーターパネル

メーターレンズには反射や映り込みを防ぐために特殊表面処理がほどこされています。雨水等の水分が付着した場合は、直ちに乾いたやわらかい布で拭き取ってください。

洗車時には、多量の水を使って、汚れを落としてください。汚れがひどいときは、薄めた中性洗剤を使用し多量の水で洗い流したあと、やわらかい布で完全に拭き取ってください。

ワックスやケミカル類が付着すると表面処理がはがれる可能性がありますので注意してください。

エキゾーストパイプ、マフラー

ステンレス鋼を使用していますので、油脂などの汚れが付着したままエンジンを始動すると、焼けムラが起きます。

汚れが付着した場合は、ステンレス用台所洗剤を使って、やわらかい布かスポンジで洗い落としてください。洗浄後は、十分に水洗いして乾いた布で水分をふき取ってください。焼けムラをとる場合は、市販の細目のコンパウンドで磨いたあと、汚れが付着した場合と同じ要領で洗い落としてください。

▶ 強くコンパウンドで磨すぎると、表面処理に影響を与えることがありますので注意してください。

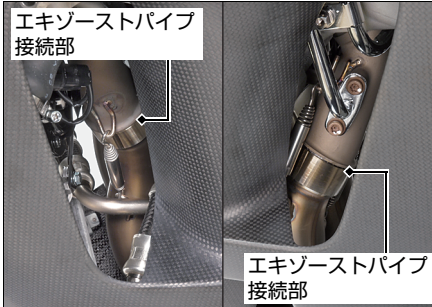
エキゾーストパイプ、マフラーが塗装されている場合は、ステンレス用台所洗剤や市販のコンパウンドを使用しないでください。塗装面の清掃には中性洗剤を使用してください。もし、塗装処理されているか判らない場合は、RC213V-S テクニカルショップにご相談ください。

アドバイス

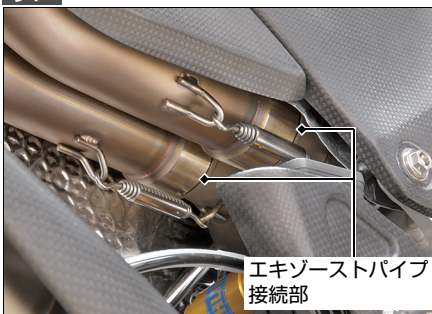
ステンレス鋼を使用している場合でも、塗装をしているものもあります。目立たないところでくもりや傷、色むらなどが生じないか確認してください。

エキゾーストパイプの接続部を点検し、排気ガス漏れがないことを確認してください。

フロント



リア



保管のしかた

屋外に保管する場合はボディーカバーをかけてください。なお、ボディーカバーはエンジンやマフラーが冷えてからかけてください。また、長期間ご使用にならない場合は、次のことをお守りください。

- サビを防ぐために、保管前にワックス掛けを行う

▶ 未塗装 CFRP 仕様(カーボン)

未塗装のカーボン部品にはワックスやコンパウンド、ケミカル類を使用しないでください。

- 雨上がりにボディーカバーを外し、車体を乾燥させる
- 付属のバッテリー充電器をバッテリー充電器コネクタに接続し、バッテリーを充電する ■P. 51

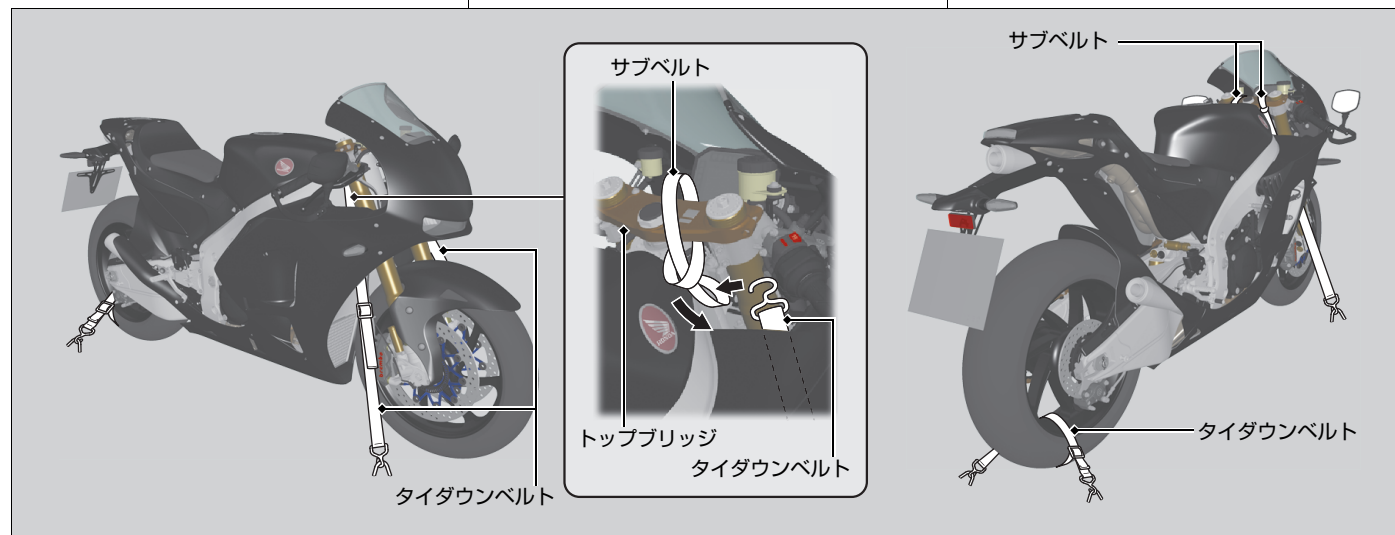
長期保管後にお車に乗る際は、保管期間を考慮したうえで、各部の点検を実施してください。

運搬のしかた

お車を運搬するときは、次のことをお守りください。

- タイダウンベルトとサブベルトを使用し、車体をしっかりと固定する
 - ▶ タイダウンベルトとサブベルトは、イラストで示した位置に必ず取り付けてください。イラストで示した位置以外には、取り付けしないでください。
- タイダウンベルトとサブベルトが、ケーブルや配線、ホース類およびカーボン部品に接触しないよう注意する

- 車体を横倒しにした状態で運搬しない
 - ▶ 車体の損傷、燃料漏れなどの原因となることがあります。
- サブベルトを、フロントフォークとステアリングヘッドの間を通して、トップブリッジに取り付ける
- タイダウンベルトの下側のフックを、積載車のフックなどに取り付ける
- タイダウンベルトの上側のフックを、サブベルトに取り付け、フロントフォークが縮むまでテンションをかける
 - ▶ 数回にわけ、左右均等にテンションをかけてください。



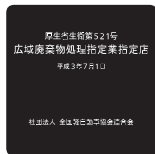
廃棄するとき

地球環境を守るため、お車や交換した部品、なかでも使用済みのバッテリーやタイヤ、エンジンオイルの廃油等はむやみに捨てないでください。これらのものを廃棄する場合は、RC213V-S テクニカルショップにご相談ください。

また、将来お車の廃棄を希望するときはお近くの廃棄二輪車取扱店へご相談ください。

廃棄二輪車取扱店とは

一般社団法人 全国軽自動車協会連合会の登録販売店で広域廃棄物処理指定店として登録されている廃棄二輪車を適正処理するための窓口です。店頭「廃棄二輪車取扱店の証」が掲示されています。



二輪車リサイクルマーク、リサイクル料金

この車には、二輪車リサイクルマークが車体に貼付されています。マークが車体に貼付されている二輪車は、再資源化するためのリサイクル費用がメーカー希望小売価格に含まれていますので、二輪車を廃棄する際は、再資源化に必要なリサイクル料金はいただきません。

ただし、廃棄二輪車取扱店および指定引取場所までの収集・運搬料金はお客様のご負担となります。収集・運搬料金については廃棄二輪車取扱店にご相談ください。

二輪車リサイクルマークは、フレームの右側にあります。



お車を廃棄する際、二輪車リサイクルマークが必要です。マークは剥がさないでください。マークの再発行や販売の取り扱いはありません。二輪車リサイクルシステムの概要、ご利用方法等は、Honda ウェブサイト「廃棄段階のリサイクル 二輪車リサイクル自主取り組み」にてご確認ください。

<http://www.honda.co.jp/motor-recycle/>

ダンパーユニット

フロントサスペンションとリアサスペンションのダンパーユニットには、高圧チッ素ガスが封入されています。廃棄する場合は、RC213V-S テクニカルショップにご相談ください。

警告

高圧チッ素ガスが封入されたダンパーユニットを火中に入れたり、穴を開けたり、分解したりすると、爆発や破裂のおそれがあり、死亡または重大な傷害に至る可能性があります。

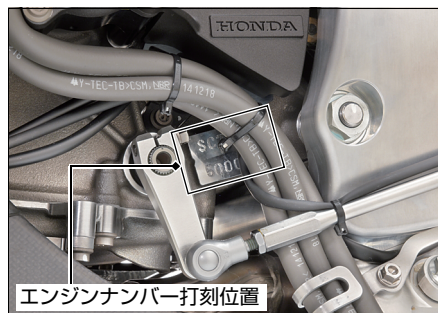
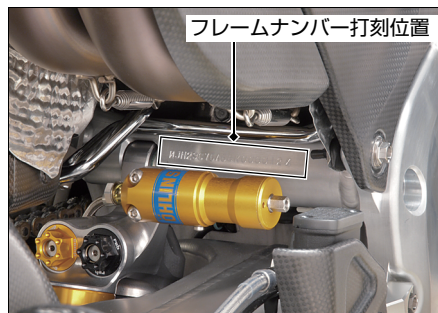
ダンパーユニットは、

- ・ 火中に入れないでください。
- ・ 穴を開けないでください。
- ・ 分解しないでください。

フレームおよびエンジンナンバー

フレームおよびエンジンナンバーは、部品を注文するときや、車の登録に関する手続きに必要です。また、フレームナンバーは、お車が盗難にあった場合に、車を捜す手がかりにもなります。ナンバープレートの登録番号とともに別紙に記録し、車と別に保管することを推奨します。

フレームナンバーは、フレームの後ろ側に打刻されています。エンジンナンバーは、エンジンの左側に打刻されています。



触媒装置について

この車には触媒装置が搭載され、排出ガスに含まれる一酸化炭素(CO)、炭化水素(HC)、窒素酸化物(NOx)の3つの有害物質の排出量を低減します。

他のマフラーをこの車に取り付けると、排出ガス規制に適合しなくなる可能性があります。触媒装置は高温になるので、枯れ草や紙など燃えやすいものがあるところには駐車しないでください。

走行上の注意

次のような取り扱いはしないでください。触媒温度が異常に高くなり、損傷するおそれがあります。

- 走行中にエンジンストップスイッチを操作すること
- 空ぶかし直後にエンジンを止めること

触媒装置の損傷を防ぐために

触媒装置が損傷すると、排出ガス濃度を劣化させるだけではなく、車本来の性能を発揮できなくなります。損傷を防ぐために、次のことをお守りください。

- 燃料は、必ず無鉛プレミアムガソリンを使用する
- 定められた点検整備を実施する
- エンジン不調を感じたときは、直ちにRC213V-S テクニカルショッップで点検を受ける

■ 主要諸元

型式	SC75
全長	2,110 mm
全幅	770 mm
全高	1,115 mm
ホイールベース	1,460 mm
最低地上高	115 mm
キャスト角	24° 35'
トレール長	105 mm
車両重量	188 kg
乗車定員	1 名
最小回転半径	3.70 m
排気量	997 cm ³
ボア × ストローク	81.0 × 48.4 mm
圧縮比	13.0
燃料	無鉛プレミアムガソリン
燃料タンク容量	16 ℓ
バッテリー容量	YTX5L-BS 12 V-4 Ah(10HR)
変速比	1 速 2.125
	2 速 1.647
	3 速 1.368
	4 速 1.217
	5 速 1.100
	6 速 1.032
減速比	1 次 1.933
	2 次 2.470

■ サービスデータ

タイヤサイズ	前輪	120/70ZR17M/C (58 W)
	後輪	190/55ZR17M/C (75W)
タイヤタイプ	ラジアル、チューブレス	
指定タイヤ	前輪	BRIDGESTONE RS10F M
	後輪	BRIDGESTONE RS10R M
タイヤ空気圧	前輪	250 kPa(2.50 kgf/cm ²)
	後輪	290 kPa(2.90 kgf/cm ²)
最小残溝量	前輪	1.5 mm
	後輪	2.0 mm
点火プラグ	標準	R0486A-9(NGK)
プラグギャップ (調整不可)	0.80 ~ 0.90 mm	
アイドル回転数	1,400 rpm	
推奨 エンジンオイル	Honda 純正 ウルトラ S9	
	JASO T 903 規格: MB	
	SAE 規格: 10W-40	
エンジンオイル 容量	API 分類: SL 級	
	オイル交換時 2.6 ℓ	
	フィルター交換時 2.8 ℓ	
エンジンオイル 交換時期	全容量 3.8 ℓ	
	初回: 1,000 km または 1 か月	
指定ブレーキ (クラッチ)液	以後: 6,000 km または 1 年ごと	
	Honda 純正ブレーキフルード	
冷却水容量	DOT 4	
	全容量 2.0 ℓ	
指定ラジエーター液	Honda 純正ウルトララジエーター液	
推奨ドライブ チェーンオイル	Honda 純正チェーンオイル	
ドライブチェーン の緩み(たるみ)	または相当品	
	30 ~ 40 mm	
エアクリーナー	点検: 1 年ごと	
点検・交換時期	交換: 24,000 km ごと	

■ バルブ(電球)

ヘッドライト	LED
ストップ/テールランプ	LED
フロントウィンカー・ ポジションランプ	LED
リアウィンカー	LED
ライセンスプレートランプ	LED

■ ヒューズ

メインヒューズ	30 A
その他のヒューズ	20 A、10 A

■ 指定締め付けトルク

シートマウントチタンボルト	10 N・m(1.0 kgf・m)
トップシェルターマウント チタンボルト	10 N・m(1.0 kgf・m)

H

Honda SMART Key System	
Honda SMART Key	81
Honda SMART Key System	36
Honda SMART Key の電池交換	71
Honda SMART Key 表示灯	32, 77
正しく作動しない	78

M

MODE ボタン	10, 16, 34, 41, 42
----------------	--------------------

P

PGM-FI 警告灯	76
------------------	----

S

SEL ボタン	10, 16, 27, 34
---------------	----------------

ア

アクセサリ	7
アシストスリッパクラッチシステム	82
安全運転のために	3
安全上守っていただきたいこと	3
安全なライディング	2
アンバーゾーン	10, 31

イ

イグニッションカットオフシステム	82
------------------------	----

ウ

運転するときの注意	4
運搬のしかた	87

エ

エアクリナー	53
--------------	----

エンジン

エンジンオーバーヒート	75
エンジンオイル	52
エンジンオイルフィルキャップ	60
エンジンオイルレベル点検窓	60
エンジン始動	43
エンジンストップスイッチ	34, 43, 82
エンジンナンバー	89
エンジンブレーキ	4
エンジンがかからないとき	74

オ

オーバーヒート	75
お手入れ	83
オドメーター	13

カ

改造	7
各部の名称	8
ガソリン	46, 91
カラーラベル	50

キ

ギアチェンジ	44
--------------	----

ク

クイックシフター	44
クラッチ	65
クラッチ液	53, 65
クラッチレバー	67

ケ

経過時間表示	14
--------------	----

警告灯

PGM-FI 警告灯	32, 76
水温警告灯	32, 75
トルクコントロール警告灯	32, 76
トルクコントロール OFF 警告灯	32
燃料残量警告灯	15, 32
油圧警告灯	32, 76
携帯工具	47
現在の日付表示	14

コ

交換部品	50
------------	----

サ

サーキットモード	12, 19
サスペンション	
フロントサスペンション	68
リアサスペンション	69
残燃料量表示	15

シ

シート	56
シフトインジケター	20, 33
触媒装置	90
瞬間燃費表示	13
書類入れ	47

ス	
水温計	10, 12
水温警告灯	32, 75
スイッチ	
ON / OFF スイッチ	34, 37
ウインカースイッチ	34
エンジンストップスイッチ	34, 43, 82
スタータースイッチ	34, 43
パッシングライトスイッチ	34
ヘッドライト上下切換スイッチ	34
ホーンスイッチ	34
ストリートモード	10, 19
スピードメーター	10, 12
スベック	91
スロットル	66
セ	
積載について	7
洗車	83
ソ	
走行可能距離表示	15
その他装備	47
タ	
タイヤ	91
タコメーター	10, 12, 13
暖機モード	31
チ	
駐車	5

テ	
点検	
定期点検	50
日常点検	49
電装部品のトラブル	79
ト	
時計	10, 12, 21
トップシェルター	57
トリップメーター	13, 82
ドライブチェーン	54, 91
ネ	
燃料	
残燃料量	15
瞬間燃費	13
使用燃料	46
燃料残量警告灯	15, 32
燃料タンク容量	46, 91
燃料補給	46
平均燃費	13
ハ	
廃棄	88
バッテリー	51
ハンドルロック	35
ヒ	
ヒューズ	52
表示灯	
Honda SMART Key 表示灯	32, 77
ニュートラル表示灯	32
ハイビームパイロットランプ	32
方向指示器表示灯	32

フ	
服装	3
ブレーキ	
ブレーキ液	53, 62
ブレーキシステム	62
ブレーキパッド	63
ブレーキレバー	67
フレームナンバー	89
ヘ	
平均速度表示	14
平均燃費表示	13
ヘルメットホルダー	82
ホ	
保管	86
ミ	
右ミドルフェアリング	58
メ	
メーター	10
メーターの設定	16
メンテナンス	48
ユ	
油圧警告灯	32, 76
ラ	
ライディングモード	40
ラップタイマー	18, 26

□
□アーフェアリング 59

リ
リサイクルマーク 88

レ
冷却水 53, 91
レッドゾーン 10, 12

お問い合わせ

RC213V-S についてのお問い合わせ、ご相談は、HRC 正規取扱店である下記 RC213V-S テクニカルショップにご相談ください。

販売店

TEL

お問い合わせ、ご相談は、全国共通のフリーダイヤルで下記のお客様相談センターでもお受けいたします。

本田技研工業株式会社 お客様相談センター

フリーダイヤル オーハローバイク **0120-086819**

受付時間 9:00 ～ 12:00 13:00 ～ 17:00
〒351-0188 埼玉県和光市本町 8-1

所在地、電話番号が変更になることがありますのでご了承ください。

お車に関してお問い合わせいただく際は、お客様へ正確、敏速にご対応させていただくために、あらかじめ、お手元にお車の車検証や届出済証などの登録書類をご準備いただき、下記の事項をご確認のうえ、ご相談ください。

- ① 車両型式、車台番号、エンジン型式、登録番号、登録年月日
- ② 車種名、タイプ名、走行距離
- ③ ご購入年月日
- ④ 販売店名